

シラバス集

マロニエ医療福祉専門学校

看護学科 2 年

2024 年度

授業科目名	①		
実務経験講師	②	実務経験	③
開講年度	④ 年度	学 期	⑥
年 次	⑤ 年次	授業回数	⑦ 回
単 位 数	単位	単位時間数	時間
授業科目の概要	⑧		
授業科目の到達目標	⑨		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6	⑩		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑪
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 実務経験講師

講師に担当する科目に関係する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

③実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

④開講年度

⑤年次

授業を受ける学年です。

⑥学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑦授業回数

⑧授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑨授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達すべき学修の目標です。

⑩授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑪使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

別表Ⅰ－6

看護学科 授業科目一覧

区分	教育内容	授業科目名	指定規則	学校指定		1年次		2年次		3年次	
			単位数	単位数	時間数	単位	時間	単位	時間	単位	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	論理科学	14	1	30	1	30				
		情報科学		1	15	1	15				
		生活科学		1	15	1	15				
	人間と生活・社会の理解	教育学		1	15			1	15		
		倫理学		1	15	1	15				
		社会学		1	15	1	15				
		心理学		1	30	1	30				
		人間関係論		1	30	1	30				
		カウンセリング論		1	15			1	15		
		家族論		1	15			1	15		
		地域論		1	15	1	15				
		英語		1	30	1	30				
		運動と健康Ⅰ		1	30	1	30				
		運動と健康Ⅱ		1	15			1	15		
基礎分野・小計			14	14	285	10	225	4	60	0	0
専門基礎分野	人体の構造と機能・ 疾病の成り立ちと回復の促進	生化学	16	1	30	1	30				
		人体の構造と機能総論		1	30	1	30				
		人体の構造と機能Ⅰ		1	30	1	30				
		人体の構造と機能Ⅱ		1	30	1	30				
		人体の構造と機能Ⅲ		1	30	1	30				
		人体の構造と機能Ⅳ		1	30	1	30				
		人体の構造と機能Ⅴ		1	30	1	30				
		疾病治療総論		1	30	1	30				
		微生物学と感染症		1	30	1	30				
		疾病治療論Ⅰ		1	30	1	30				
		疾病治療論Ⅱ		1	30	1	30				
		疾病治療論Ⅲ		1	30	1	30				
		疾病治療論Ⅳ		1	30	1	30				
		疾病治療論Ⅴ		1	30			1	30		
		疾病治療論Ⅵ		1	30			1	30		
	健康支援と 社会保障制度	臨床薬理学	6	1	30	1	30				
		総合医療論		1	15	1	15				
		公衆衛生学		1	15			1	15		
		社会福祉論Ⅰ		1	15	1	15				
		社会福祉論Ⅱ		1	15			1	15		
		関係法		1	15					1	15
専門基礎分野・小計			22	22	570	16	450	5	105	1	15
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	11	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅰ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅱ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅲ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅳ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅴ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅵ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅶ		1	30	1	30				
		看護過程		1	30			1	30		
		看護研究		1	30					1	30
	地域・在宅看護論	臨床看護総論	6	1	15	1	15				
		基礎看護学実習Ⅰ		1	45	1	45				
		基礎看護学実習Ⅱ		2	90			2	90		
		地域・在宅看護学概論		1	30	1	30				
		地域・在宅看護方法論Ⅰ		1	15			1	15		
		地域・在宅看護方法論Ⅱ		1	15			1	15		
	成人看護学	地域・在宅看護方法論Ⅲ	2	1	15			1	15		
		地域・在宅看護方法論Ⅳ		1	30			1	30		
		地域・在宅看護方法論Ⅴ		1	30			1	30		
		地域・在宅看護論実習		2	90					2	90
		成人看護学概論	6	1	30	1	30				
		成人看護学方法論Ⅰ		1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅱ		1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅲ		1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅳ		1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅴ		1	30			1	30		
	老年看護学	成人看護学実習Ⅰ	2	2	90			2	90		
		成人看護学実習Ⅱ		2	90					2	90
		成人看護学実習Ⅲ		2	90					2	90
		老年看護学概論	4	1	30	1	30				
		老年看護学方法論Ⅰ		1	30			1	30		
		老年看護学方法論Ⅱ		1	15			1	15		
	老年看護学方法論Ⅲ	1		30			1	30			
	小児看護学	老年看護学実習Ⅰ	2	2	90			2	90		
		老年看護学実習Ⅱ		2	90					2	90
		小児看護学概論	4	1	30	1	30				
		小児看護学方法論Ⅰ		1	15			1	15		
		小児看護学方法論Ⅱ		1	30			1	30		
		小児看護学方法論Ⅲ		1	30			1	30		
	小児看護学実習	2		90					2	90	
	母性看護学	母性看護学概論	4	1	30	1	30				
		母性看護学方法論Ⅰ		1	15			1	15		
		母性看護学方法論Ⅱ		1	30			1	30		
		母性看護学方法論Ⅲ		1	30			1	30		
		母性看護学実習		2	90					2	90
		精神看護学	精神看護学概論	4	1	30	1	30			
	精神看護学方法論Ⅰ		1		15			1	15		
	精神看護学方法論Ⅱ		1		30			1	30		
	精神看護学方法論Ⅲ		1		30			1	30		
	精神看護学実習		2		90					2	90
	看護の統合と実践		看護の統合と実践Ⅰ	4	1	30			1	30	
		看護の統合と実践Ⅱ	1		30			1	30		
		看護の統合と実践Ⅲ	1		15					1	15
		看護の統合と実践Ⅳ	1		30					1	30
		看護の統合と実践実習	2		90					2	90
		看護の統合と実践実習	2		90					2	90
専門分野 小計			66	66	2,190	16	480	31	915	19	795
合 計			102	102	3,045	42	1,155	40	1,080	20	810

授業科目名	教育学		
実務経験講師	－	実務経験	－
開講年度	2024年度	学 期	前期
年 次	2年次	授業回数	8 回
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間
授業科目の概要	人を教え導くという点において看護と教育には共通点がある。そのため、教育学を学ぶことを通じて、看護の役に立つ考え方や方法を見つけ出すことができる。 また、現代の教育の在り方や課題を見つめることは現代社会そのものを理解することにも通じる。違う角度をもって考えたり、見つめたりすることができる。		
授業科目の到達目標	1. 教育の現代的な状況や課題と対応について理解できる。 2. アンドラゴジーへの視点から専門職として自らの成長や意味を考え、対象者に活用できる。 3. 社会人として教育問題や教育を人間の発達や社会との関係まで戻って考え、判断できる基礎を培うことができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	社会の中の看護と教育、教育の概念	講義	
2	人を教えるということ、他者とのかかわりを導く	講義	
3	教育の受け手を見守る、教育を受けて成長する	講義	
4	学びの家家庭と学校、教育の目標と評価	講義	
5	キャリア教育、ジェンダーとセクシュアリティ	講義	
6	特別ニーズ教育・インクルーシブ教育	講義	
7	生涯学習、シティズシップ教育	講義	
8	終講試験		

使用テキスト	看護のための教育学 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野
この授業科目から発展する主な科目	専門基礎分野、専門分野、統合分野
成績評価の方法	評価配点：終講試験 100点 入江 40 点 宮内 60点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	カウンセリング論		
実務経験講師	－	実務経験	－
開講年度	2024年度	学 期	
年 次	2年次	授業回数	8 回
単 位 数	1単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	現代社会は多くの問題や課題があり、1人1人が向き合わなければならない。その中で悩みや葛藤、困りごとを相談でき、一緒に解決法を考え取り組みを支えてくれる存在がいたら乗り越えることが可能になる。カウンセリングの基礎を学ぶことにより、人間関係構築の助けとなる。		
授業科目の到達目標	1. カウンセリング・心理療法の種類とその方法を理解できる。 2. カウンセリングと心理療法の看護への応用について学ぶ。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	カウンセリングと心理療法理論とスキルを学ぶ。	講義	
2	支持的精神療法	講義	
3	来談者(クライエント)中心療法	講義	
4	精神力動的精神療法	講義	
5	行動療法	講義	
6	認知療法、認知行動療法	講義	
7	看護への応用	講義	
8	終講試験	講義	

使用テキスト	系統看護学講座 人間関係論 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	心理学 人間関係論 基礎分野
この授業科目から発展する主な科目	専門分野 統合分野
成績評価の方法	評価配点:終講試験 100 点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	家族論		
実務経験講師	－	実務経験	－
開講年度	2024年度	学 期	前期
年 次	2年次	授業回数	8 回
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間
授業科目の概要	看護の対象者は家族も含まれる。そのため、家族についての知識や理解は必要である。社会の変化に伴い、家族の形態や機能が大きく変化している。日本の家族、他国の家族の定義や機能を調べ、家族とは何かを考える。また、家族が多様化する中で、家族江尾取り巻く問題も複雑になっており、それらの問題についても現状や課題を理解する。		
授業科目の到達目標	1. 多様化する現代の家族、家族関係を理解する。 2. 各国の家族について理解する。 3. 現代の家族を取り巻く問題の現状と課題について理解する。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	家族とは何か	講義	
2	各国における「家族」	演習・講義	
3	各国における「家族」	演習・講義	
4	家族の形態と機能の変化	講義	
5	現代の家族	講義	
6	家族を取り巻く問題	演習・講義	
7	家族を取り巻く問題、まとめ	演習・講義	
8	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 家族看護学 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	生活科学、人間関係論、カウンセリング論、心理学、社会学、地域論
この授業科目から発展する主な科目	地域・在宅看護論 小児看護学、母性看護学
成績評価の方法	終講試験100点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	運動と健康Ⅱ(実技)		
実務経験講師	－	実務経験	－
開講年度	2024年度	学 期	前期
年 次	2年次	授業回数	8 回
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間
授業科目の概要	看護の対象者の健康を維持するためには運動は必要である。運動が生体への影響と健康のつながりを学び、健康維持のため運動の必要性を理解する。学生自身も実技で運動することにより、運動の必要性を実感し対象者へすすめることができる。		
授業科目の到達目標	1. 運動の必要性を理解する。 2. 運動が生体へ及ぼす影響を学ぶ。 3. 実技で運動することにより、運動の効果を実感できる。 4. 運動の必要性を対象者に説明できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	バレーボール等	実技	
2		実技	
3		実技	
4		実技	
5		実技	
6		実技	
7	▼	実技	
8	終講試験	実技	

使用テキスト	
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	運動と健康Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	人体の構造と機能 疾病と治療 専門分野 統合分野
成績評価の方法	評価配点:実技・出席度100点
その他 受講生への要望等	準備運動をしっかり行ってください。

授業科目名	疾病治療論Ⅴ(脳神経・感覚器)		
実務経験講師	○	実務経験	①医師 ②看護師
開講年度	2024年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	この科目では、看護実践の科学的な根拠となる脳神経系、感覚器系、それぞれの構造と機能及び、特徴的な疾患・症状・検査・治療について学習する。		
授業科目の到達目標	1.各疾患の病態を説明できる。 2.各疾患の検査と診断基準、症状と予後を説明できる。 3.各疾患の基本的な治療を説明できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	A脳疾患 脳血管障害 脳腫瘍	講義	
2	頭部外傷 脳脊髄液の異常	講義	
3	B 脊髄疾患 脊髄血管障害 脊髄炎 C末梢神経障害 糖尿病性ニューロパチー ギランバレー症候群 顔面神経麻痺	講義	
4	D筋疾患・神経筋接合部疾患 筋ジストロフィー 多発性筋炎・皮膚筋炎 重症筋無力症	講義	
5	E脱髄・変性疾患 脱髄疾患(MS etc)	講義	
6	脳・神経の変性疾患(パーキンソン病 etc) F脳・神経系の感染症 脳炎 髄膜炎 その他の神経感染症	講義	
7	G中毒 アルコール中毒	講義	

	一酸化炭素中毒 薬物中毒 Hてんかん 主なてんかんの発作型 てんかんの検査と治療		
8	I認知症 アルツハイマー型認知症 レビー小体型型認知症 血管性認知症 前頭側頭型認知症	講義	
9	J内科疾患に伴う神経疾患 神経パーチエット病 サルコイドーシス 甲状腺機能低下症	講義	
10	耳鼻咽喉頭疾患の理解・診断・検査と治療・処置 (1)耳疾患の検査・治療 ①中耳炎 ②メニエール病 ③老人性難聴	講義5	
11	(2)鼻・咽頭疾患の検査・治療 ①副鼻腔炎 ②アレルギー性鼻炎 ③咽頭・喉頭がん	講義	
12	眼疾患の理解・診断・検査と治療・処置 (1)検査法の種類 ①視力検査 ②屈折検査 ③眼底検査 ④眼圧検査	講義	
13	(2)眼疾患の理解 ①白内障 ②緑内障 ③屈折異常	講義	
14	//	講義	
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経、成人看護学[13] 眼 成人看護学[14] 耳鼻咽喉頭 医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能・薬理学
この授業科目から発展する主な科目	専門分野Ⅰ・Ⅱ 統合分野
成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象及び配分：試験 100 点 (試験配点)脳・神経系の疾患：点(宮脇 15 点、岡田 25 点、亀田 15 点、川上 15 点)、 感覚器系の疾患：30 点

その他 受講生への要望等	
-----------------	--

授業科目名	疾病治療論Ⅵ(生殖器系、皮膚、アレルギー、膠原病)		
実務経験講師	○	実務経験	医師
開講年度	2024年度	学 期	
年 次	2 年次	授業回数	15回
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間
授業科目の概要	看護実践の科学的な根拠となる生殖器系、皮膚、アレルギーの特徴的な疾患、症状、検査、治療について学習する。		
授業科目の到達目標	1. 各疾患の特徴を理解できる。 2. 各疾患の検査と診断基準、病状と予後を理解できる。 3. 各疾患の基本的な治療を理解できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	女性生殖器症状とその病態生理	講義	
2	診察・検査と治療	講義	
3	疾患の理解 性分化疾患	講義	
4	臓器別疾患	講義 演習	事前学習の発表
5	感染症	講義	
6	皮膚症状とその病態生理、検査と治療・処置	講義	
7	疾患の理解 表在性、脈管系の異常によるもの	講義	
8	腫瘍及び色素異常症、感染症	講義	
9	アレルギー、膠原病 免疫のしくみとアレルギー	講義	
10	診断・検査と治療 症状と疾患の理解	講義	
11	膠原病 自己免疫疾患とその機序	講義	
12	症状と病態生理、検査と治療	講義	
13	疾患の理解 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス	講義	
14	シェーグレン症候群、全身性強皮症、多発筋炎、ベーチェット病	講義	症状関連図作成
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学 女性生殖器、皮膚、アレルギー・膠原病
参考書・資料 等	ビジュアルノート
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、薬理学
この授業科目から発展する主な科目	専門分野

成績評価の方法	評価時期：終講時 評価配点：生殖器 30 点、アレルギー15 点 膠原病 30 点、皮膚 25 点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	公衆衛生学		
実務経験講師	－	実務経験	－
開講年度	2024年度	学 期	後期
年 次	2年次	授業回数	8 回
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間
授業科目の概要	公衆衛生の概念と歴史を学び、現在の公衆衛生関係の統計情報と保健活動を理解するとともに、これからの保健・医療・福祉を考察する基礎となる知識を学ぶ。		
授業科目の到達目標	1. 公衆衛生の概念を学び、公衆衛生活動（特に健康日本 21）などの実際を知る。 2. 気候変動が世界的な公衆衛生課題となっており、健康と環境の関連性について公衆衛生学的な視点から理解できる。 3. 世界的に感染症リスクが高まっている現状を踏まえ、公衆衛生上の課題を考察する。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	公衆衛生学概論・保健統計	講義	
2	環境衛生・食品衛生	講義	
3	感染症・健康増進	講義	
4	母子保健・学校保健	講義	
5	産業保健・高齢者保健	講義	
6	精神保健・国際保健	講義	
7	保健医療制度	講義	
8	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 公衆衛生 医学書院
参考書・資料 等	国民衛生の動向
この授業科目の前提となる主な科目	社会福祉学、微生物学
この授業科目から発展する主な科目	関係法規、専門分野、統合分野
成績評価の方法	評価配点：終講試験 93 点 出席 7 点 計 100 点満点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	社会福祉論Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	社会福祉士
開講年度	2024年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	7回
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間
授業科目の概要	高齢化の急速な進行と年金制度の成熟化、介護保険制度の創設などにより、社会保障社会福祉は誰もがかかわりを持つ普遍的な制度として意識されるようになっている。 「病気ではなく、病人をみる」ためには社会保障・社会福祉の理解が看護学生にとって必須であり、また、各専門職との連携の在り方を考える機会となる。		
授業科目の到達目標	1. 社会扶助のうち、生活保護制度と障害者福祉制度について学習し、社会的弱者に対する制度の知識を養うことができる。 2. 社会保障全般を通して、各専門職との連携の在り方を認識することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	所得保障	講義	
2	公的扶助	講義	
3	社会福祉の分野とサービス	講義	
4	//	講義	
5	//	講義	
6	社会福祉実践と医療・看護	講義	
7	//	講義 演習	事例展開
8	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 社会保障・社会福祉 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	関係法規
この授業科目から発展する主な科目	専門分野、統合分野
成績評価の方法	評価配点：終講試験 100 点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	医療と経済		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年度	学 期	前期
年 次	2年次	授業回数	8 回
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間
授業科目の概要	医療現場の視点にとどまらず、社会全体から医療経済を見渡し、医療の価値や課題を学ぶ。		
授業科目の到達目標	1. 社会全体から医療の意義を経済学的に理解する。 2. 経済や政策を学び医療をよくする考えを持つことができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	医療者が経済学を学ぶ意義、医療サービスの特殊性	講義	
2	公的医療保険がなぜ必要か、医療の質評価と情報公開	講義	
3	医療サービスの規制、医療職の不足	講義	
4	転換を迫られる医療政策 国民医療費	講義 演習	我が国の医療費を調べる。
5	これまでの医療費抑制、急性期医療の集約化	講義	
6	医療サービスの費用効果分析	講義	
7	医療者が持つべきコスト意識	講義	リフレクションレポート
8	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 医療概論 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野、専門基礎分野
この授業科目から発展する主な科目	専門分野 統合分野
成績評価の方法	評価配分：終講試験 100 点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	基礎看護学 看護過程		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	看護過程とは、看護を必要とする対象との相互作用に基づいて行う、看護上の問題を解決する過程です。アセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価、これら 5 つの構成要素を学ぶことで、根拠ある看護を実践する知識・判断力を身に付けることを目指します。		
授業科目の到達目標	1. 看護過程でいう看護とは何か説明できる。 2. 体力・意志力・知識、常在条件、病理的状态がわかる 3. アセスメントに必要なヘンダーソン 14 の視点と充足した状態が理解できる。 4. 不足(未充足)した関連項目から看護上の問題(看護診断)が明確にできる。 5. 看護上の問題に関連した目標設定と具体策の立案ができる。 6. 実施・評価の視点から記録ができる 7. 看護目標の評価方法がわかる 8. 関連図を用いて全体像が把握できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／確認テスト
1	・ここでの看護とはなにか ・看護過程の 5 つの構成要素 「アセスメント・看護診断・計画・実施・評価」 ・常在条件と病理的状态 ・体力・意志力・知識の側面 ・ヘンダーソン 14 の視点とそれぞれの充足した状態の理解 ～基本的欲求「マズロー」～	講義	看護過程における看護の定義と基本的欲求「14 項目」の確認
2	・充足した状態の理解 ・実習記録用紙の説明 ・「アセスメント」とは ～情報の収集・分析と理解～	講義 グループ ワーク	・看護過程における看護の定義 ・基本的欲求「14 項目」の確認とそれぞれの充足した状態
3	・14 項目と充足した状態の確認 【健常者偏】 【1 回目】「アセスメント」 (情報の収集と分析・解釈)の実践	講義 ペアワーク	・1号、基本的欲求「14 項目」と充足した状態の確認
4	・14 項目と充足した状態の確認 【健常者偏】 【2 回目】「アセスメント」 (情報の収集と分析・解釈)の実践	講義 ペアワーク	・1号、基本的欲求用紙 「提出」10 点 ・【課題】 基本的欲求用紙 【利き腕を使わない生活体験】 「飲食」「排泄」「衣類」「清潔」

5	・14 項目と充足した状態の確認 【療養者偏】 【1 回目】「アセスメント」(情報の収集と分析)実践 ～血液検査データの追加～	講義 ペアワーク	・1号、2 号、基本的欲求 「14 項目」と充足した状態の確認
6	・14 項目と充足した状態の確認 【療養者偏】 【2 回目】「アセスメント」(情報の収集と分析)実践 ～画像検査データの追加～	講義 ペアワーク	・1号、2 号、基本的欲求用紙 「提出」10 点
7	～「 肺炎 」の見本展開～ 1 回目 【関連項目と基本的な看護問題の抽出「看護診断」】	講義 グループ ワーク	1号・2 号・3号・4号 ・基本的欲求用紙
8	2 回目 【関連図作成の理由と基本的な組み立て方】 1)現疾患、既往 2)看護問題 3)看護援助 4)検査 5)治療 6)個別情報(常在条件)	講義 グループ ワーク	5号用紙
9	3 回目 【看護問題の抽出「看護診断」と看護援助「計画」】 ～OP・TP・EP～ 「看護目標」目的を持った「計画」の書き方 ～5W1H と視点～	講義 グループ ワーク	6号用紙
10	4 回目 ～追加情報～ 【「実施」・「評価」の書き方と視点 SOAP 表記】	講義 グループ ワーク	6号 見本展開「提出」10点 1号～6号用紙
11	～「 肺炎 」事例による学生主体の看護展開～ 1 回目 【アセスメントと看護診断】	個人ワーク	担当教員へ提出 5点 1号・2号・3号・4号 ・基本的欲求用紙
12	2 回目 【関連図の作成】	個人ワーク	担当教員へ提出 5点 5号用紙
13	3 回目 【計画】「 肺炎 」事例看護展開と関連図	個人ワーク	担当教員へ提出 5点 6号用紙
14	4 回目 ～追加情報～ 【実施・評価】「 肺炎 」事例看護展開と関連図	個人ワーク	6号用紙 担当教員へ提出 5点
15	終講試験	筆記試験	個人ワーク1～6号提出

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学概論・基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護過程を使ったハンダーソン看護論の実践 第5版 ヌーバルヒロカワ ハンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト 第5版
この授業科目の前提となる主な科目	論理学 人体の構造と機能 疾病治療論 栄養学 薬理学 生化学 基礎看護学概論 基礎看護学方法論

この授業科目から発展する主な科目	臨床看護実践論 成人看護学方法論Ⅴ 老年看護学方法論Ⅲ 小児看護学方法論Ⅲ 精神看護学方法論Ⅲ 在宅看護論方法論Ⅲ 基礎看護学実習 各領域実習
成績評価の方法	筆記試験 50点 ・14 項目とそれぞれの充足した状態の理解は必修問題とする。 課題 50点 「第 12、13、14 回」授業終了後の当日中にそれぞれ提出担当教員へ提出すること。
その他 受講生への要望等	・課題の提出期日を厳守してください。 ・グループワークでは主体的・協力的に参加しましょう。 ・尚、本科目の単位修得は、 <u>基礎看護学実習の履修前提条件</u> となります。

授業科目名	地域・在宅看護方法論Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	自分の参加した地域の暮らしの実際から、市（自治体）、社協、患者会などが健康な生活に向けて行っている支援を理解し、健康な暮らしに向けての課題を他者と共有しながら見出ししていく力、また、それを人に伝える力を身につけることを目標とします。さらに、その人らしい生活や人々との関わりの中で「看護とはなにか」について考えられることを目指します。		
授業科目の到達目標	1 地域で生活する人を理解し、健康に影響を与えているものを記述することができる 2 地域の方と触れ合うことで地域性を知り、課題を明確にすることができる 3 その人らしい生活とは何かを考えることができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	暮らしのなかにある看護 私たちの暮らし 私たちの暮らしを支えているつながり	講義	
2	地域のなかにある暮らし 地域社会とはなにか 暮らしや健康に影響を与えるもの 地域看護の実際	講義	
3	フィールド調査グループワーク	演習	課題：事前に提示された内容を調査
4	フィールド調査発表	演習	//
5	地域の福祉について～社協など～	講義	
6	課題の探求	講義	
7	健康生活支援の実際と、より健康な生活に向けての提案	講義	レポート提出
8	終講試験		

使用テキスト	① 医学書院 系看・統合分野 地域・在宅看護論の基盤、実践 ② メディカ出版 ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア
参考書・資料 等	地域・在宅看護論実習 クイックノート
この授業科目の前提となる主な科目	地域論、家族論 在宅看護論概論
この授業科目から発展する主な科目	在宅看護論方法論Ⅰ～Ⅳ、看護の統合Ⅰ～Ⅲ、 臨地実習、在宅看護論実習、看護の統合実習

成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象および配分：グループワークの内容および参加時の態度（10 点）、 レポート（10 点）、終講試験（80 点）
その他 受講生への要望等	・提出物は、提出期日を厳守すること。期日を過ぎた場合には評価外とします。 ・尚、本科目の単位修得は、在宅看護論実習の履修前提条件となります。

授業科目名	地域・在宅看護方法論Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	地域で暮らす多様な人々の日常にあるリスクを、災害が生じたときに何が起こるかから考え、健康な暮らしとは何か、看護がそのような役割を果たせば健康に暮らせるのか、また避難生活をするようになった場合にはどのように健康を守るかを追求できることを目標とします。		
授業科目の到達目標	1 災害に備えた準備の必要性を述べることができる 2 避難生活をイメージし、健康を維持する看護の場面を考えることができる 3 災害により避難生活を余儀なくされた対象者の想いを知り、看護の必要性について気づくことができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	災害とは何か 地震・浸水被害、及び、災害関連死について 在宅看護における健康危機・災害対策に関わる施策・災害対策と必要性	講義	
2	災害エスノグラフィー①	講義・演習	
3	災害エスノグラフィー②	講義・演習	
4	地域包括ケアシステムにおける健康危機・災害対策と連携	講義	
5	訪問看護ステーションにおける健康危機・災害対策と対応	講義	
6	災害のための日頃の備え 災害時に守る命と災害後の暮らしについて	講義	自分が試みる日頃の備えのレポート提出
7	避難時の看護 アウトリーチ 事業継続計画(BCP)	講義	
8	終講試験		

使用テキスト	① 医学書院 系看・統合分野 地域・在宅看護論の基盤、実践 ②メディカ出版 ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア
参考書・資料 等	地域・在宅看護論実習 クイックノート
この授業科目の前提となる主な科目	地域論、家族論 在宅看護論概論
この授業科目から発展する主な科目	在宅看護論方法論Ⅰ～Ⅳ、看護の統合Ⅰ～Ⅲ、 臨地実習、在宅看護論実習、看護の統合実習

成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象および配分： 演習参加時の態度（10 点）、レポート（10 点）、終講試験（80 点）
その他 受講生への要望等	・予習として提示されたテキストを読んでから授業に臨んで下さい。 ・提出物は、提出期日を厳守すること。期日を過ぎた場合には評価外とします。 ・尚、本科目の単位修得は、在宅看護論実習の履修前提条件となります。

授業科目名	地域・在宅看護方法論Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	本科目では、訪問看護の対象と機能、役割について学ぶことを目的とします。現在、退院調整は入院時から始まっており、継続看護の重要性や各療養者に合わせた他職種連携、社会資源の活用方法についても学習します。 現在、地域包括ケアシステムにおいて「自宅での看取り」が重要な課題とされています。看取りまでも含めた療養者と家族への支援は訪問看護にとって重要な役割となり、事例を通して学び自己の死生観を考える機会とします。また、対象理解だけではなくコミュニケーション技術やマナーも学び、信頼関係を構築することの重要性について考えることを目指します。		
授業科目の到達目標	1 訪問看護ステーションの概要について述べることができる 2 訪問看護に関わる制度と社会資源の活用について述べるができる 3 各療養期における訪問看護師の役割について述べるができる 4 療養者および家族の価値観やニーズの尊重と、信頼関係を構築する重要性について気づくことができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	訪問看護ステーションの運営 在宅療養と社会資源 社会資源の理解（フォーマルとインフォーマル）	講義	
2	在宅看護の対象理解（認知症） 在宅における認知症患者の支援について考える	講義	
3	在宅看護の対象理解（精神） 障害者自立支援法および在宅における精神疾患患者の支援について考える	講義	
4	在宅看護の対象理解（難病） 難病法および在宅における難病患者の支援について考える	講義	
5	在宅看護の対象理解（小児） 在宅における小児の支援について考える	講義	
6	在宅看護の対象理解（終末期） 在宅における終末期患者の支援について考える 自己の死生観について考える	講義	死生観のレポート提出
7	訪問看護におけるコミュニケーションとマナー コミュニケーション技術と信頼関係の構築	講義	マナーのレポート提出

8	終講試験		
---	------	--	--

使用テキスト	① 医学書院 系看・統合分野 在宅看護論の基盤、実践 ②メディカ出版 ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア
参考書・資料 等	地域・在宅看護論実習 クイックノート
この授業科目の前提となる主な科目	人間関係論Ⅰ～Ⅱ、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅳ、関係法規、社会福祉、公衆衛生学、 疾病治療論Ⅱ・Ⅴ、基礎看護学概論、基礎看護学臨床看護総論、基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅴ 成人看護学概論、老年看護学概論、母性看護学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、 成人看護学方法論Ⅰ～Ⅳ、老年看護学方法論Ⅰ～Ⅱ、小児看護学方法論Ⅰ～Ⅱ、 精神看護学方法論Ⅰ～Ⅱ、在宅看護論概論
この授業科目から発展する主な科目	在宅看護論方法論Ⅰ～Ⅳ、看護の統合Ⅰ～Ⅲ、 臨地実習、在宅看護論実習、看護の統合実習
成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象および配分：レポート（20点）、終講試験（80点）
その他 受講生への要望等	・予習として提示されたテキストを読んでから授業に臨んで下さい。 ・レポートは評価の対象となるため、やむを得ない事情を除いて提出期日を厳守すること。 提出期日に遅れた場合、追評価（8割）とする。 ・尚、本科目の単位修得は、在宅看護論実習の履修前提条件となります。

授業科目名	地域・在宅看護方法論Ⅳ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	本科目では、在宅看護における訪問看護援助の実際を学び、在宅看護に必要な援助技術を学ぶことを目的とします。在宅では、様々な健康段階にある療養者が療養しています。また、現在、在宅医療を必要とする療養者も増えています。療養者が適切な在宅医療を受けながら安全安楽に生活できるよう支援することも訪問看護師の重要な役割となります。対象を生活者として捉え、それぞれの環境に応じた援助技術を学ぶことを目標とします。		
授業科目の到達目標	1 在宅における基本的日常生活援助に関する援助の工夫について述べることができる 2 在宅療養者の症状・状態別看護のポイントについて述べることができる 3 特殊な医療技術を伴う援助のポイントについて述べることができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト	使用テキストページ数
1	訪問看護の基本技術、安全性と経済性の確保	講義		①医学書院 P183～195
2	在宅における日常生活援助 活動、環境、住宅改修について	講義		②メディカ出版 P252～262
3	在宅における日常生活援助 清潔、在宅で求められる援助の工夫	講義		
4	在宅における日常生活援助 食生活、排泄	講義		
5	在宅における日常生活援助 呼吸の援助、服薬管理	講義		
6	在宅における日常生活援助 在宅リハビリテーション、生活指導技術	講義	課題：本講座第 2 回目講義資料（在宅における日常生活援助：活動、環境、住宅改修について）を復習しておくこと。	
7	在宅療養者の症状・状態別看護 脳血管疾患、パーキンソン病	講義	課題：脳梗塞、脳出血、パーキンソン病の看護について復習しておくこと	
8	在宅療養者の症状・状態別看護 認知症、独居高齢者	講義	課題：認知症高齢者の看護について復習しておく。	
9	在宅療養者の症状・状態別看護 小児、終末期	講義	課題：脳性麻痺の看護、及び、小児に関する社会	

			資源について復習しておくこと。	
10	在宅療養者の症状・状態別看護 ALS、COPD	講義	課題：ALS、COPDの看護について復習しておくこと。	
11	特殊な技術を伴う在宅看護① 排泄：膀胱留置カテーテル法、自己導尿、 ストーマ管理、褥瘡管理	講義	課題：本講座第4回目講義資料を復習しておくこと。	
12	特殊な技術を伴う在宅看護② 食生活：経管栄養法、経腸栄養法、在宅中心 静栄養法	講義	課題：本講座第4回目講義資料を復習しておくこと。	
13	特殊な技術を伴う在宅看護③ 呼吸：在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気法 在宅人工呼吸療法	講義	課題：本講座第5回目講義資料を復習しておくこと。	
14	特殊な技術を伴う在宅看護③ 呼吸：気管口腔ケア	講義	課題：本講座第5回目、 13回目講義資料を復習しておくこと。	
15	終講試験			

使用テキスト	① 医学書院 系看護・統合分野 地域・在宅看護論の基盤、実践 ② メディカ出版 ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア
この授業科目を前提とする主な科目	人間関係論Ⅰ～Ⅱ、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅳ、疾病治療論Ⅱ・Ⅴ、基礎看護学Ⅰ～Ⅴ、 成人看護学方法論Ⅱ～Ⅳ、老年看護学方法論Ⅰ～Ⅱ、小児看護学方法論Ⅰ～Ⅱ、 在宅看護論概論、在宅看護論方法論Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	在宅看護論方法論Ⅰ～Ⅳ、看護の統合Ⅰ～Ⅲ、 臨地実習、在宅看護論実習、看護の統合実習
成績評価の方法	終講試験 柿沼40点 鮎澤30点 瀬下30点
その他 受講生への要望等	・予習として提示されたテキストを読んでから授業に臨んで下さい。 ・尚、本科目の単位修得は、在宅看護論実習の履修前提条件となります。

授業科目名	地域・在宅看護方法論Ⅴ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	本科目では、事例を通し在宅看護を効果的に展開するための方法を学ぶことを目的とする授業科目です。看護過程では、療養者だけでなく家族および介護力、住環境、社会資源、経済力に関する分析を行い、疾病や障害を抱えながら生活していく上での問題点を明確にし、訪問看護師としてどのような看護介入ができるか考えることを目標とします。又、退院に向けての支援を考えることで継続看護の重要性を学ぶことも目標とします。看護計画の立案に至っては、療養環境に合わせた援助や介護者が継続して実施できる方法を考慮した計画を考えます。また、訪問看護師にとって多職種や関係機関との連携、調整や社会資源の関するケアマネジメントも必要な役割となります。必要となる社会資源、支援連携図を通して、社会資源の活用および関係職種の連携を考えられることも目指します。		
授業科目の到達目標	1 疾病や障害を抱えながら生活していく上での問題点を明確にし、療養環境に合わせた援助計画が立案できる 2 家族介護力について分析し、家族への支援内容について記述することができる 3 療養生活を継続させるために必要な社会資源について、療養者と家族のニーズに合わせたケアマネジメントができる 4 退院後、安心した療養生活が継続できるための支援について述べることできる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	講義：退院に向けての支援のポイント 事例の基本情報の共有、及び、選択事例の決定	講義	課題：選択事例に合わせた社会資源について復習する。
2	講義：法的根拠、経済的負担、社会資源の活用方法について 演習：グループワーク① 選択事例の支援内容	講義 演習	
3	講義：法的根拠、経済的負担、社会資源の活用方法について 演習：グループワーク② 選択事例の支援内容 発表準備	講義 演習	
4	演習：グループ発表	演習	
5	演習：グループ発表 リフレクション	演習	
6	講義：事例（脳梗塞後遺症を持つ老年療養者）の 基本情報の共有	講義	課題：事例と特徴をつかむ。 脳梗塞の疾患、症状、治療、 看護についてまとめる。

7	講義：在宅看護過程展開のポイント 在宅看護過程における情報収集内容	講義	
8	講義：在宅看護過程における情報収集内容のまとめ 演習：基礎情報Ⅰの整理・記載（記録様式1）	講義 演習 （個人ワーク）	
9	演習：基礎情報Ⅱの整理・記載（記録様式1、2）	演習 （個人ワーク）	
10	演習：基礎情報Ⅱの整理・記載（記録様式2）	演習 （個人ワーク）	個人ワーク看護過程 レポート提出
11	講義：家族介護力評価表 演習：家族介護力評価表の整理・記載（記録様式3）	講義 演習 （個人ワーク）	
12	講義：在宅療養を支える関係機関、職種と連携について 多職種における看護職の役割について 演習：支援連携図の整理・記載（記録様式2—2 追加）	講義 演習 （個人ワーク）	
13	講義：在宅療養を支える社会資源について 演習：今後考えられる社会資源および援助の記載 （記録様式2—2 追加）	講義 演習 （個人ワーク）	
14	講義：在宅看護におけるアセスメントの視点、 看護計画立案について 演習：事例におけるアセスメント 療養上の問題と看護介入の方法	講義 演習 （個人ワーク）	個人ワーク看護過程レポート 提出
15	終講試験	筆記試験	

使用テキスト	① 医学書院 系看・統合分野 在宅看護論の基盤、実践 ②メディカ出版 ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア
参考書・資料 等	地域・在宅看護論実習 クイックノート ヌーベルヒロカワ 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 医歯薬出版株式会社 在宅看護体験学習ノート 医学書院 系看・専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論 医学書院 系看・専門分野Ⅱ 成人看護学 [7]脳・神経 メディックメディア 病気がみえる⑦脳・神経
この授業科目の前提となる主な科目	人間関係論Ⅰ～Ⅱ、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅳ、疾病治療論Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ、 基礎看護学Ⅰ～Ⅴ、在宅看護論概論、在宅看護論方法論Ⅰ、 老年看護学方法論Ⅰ、老年看護学方法論Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	在宅看護論方法論Ⅰ～Ⅳ、看護の統合Ⅰ～Ⅲ、 臨地実習、在宅看護論実習、看護の統合実習

成績評価の方法	評価時期：終講時 ①提出物 70 点 内訳：事前学習および態度（課題の提出）10 点、看護過程レポート 60 点 評価対象および配分：別紙評価表に準じて、事前学習内容および看護過程レポートにより評価する。 ②終講試験 30 点
その他 受講生への要望等	・予習として提示されたテキストを読んでから授業に臨んで下さい。 ・提出物は、提出期日を厳守すること。期日を過ぎた場合には評価外とします。 ・尚、本科目の単位修得は、在宅看護論実習の履修前提条件となります。

授業科目名	成人看護学方法論Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	本科目では、生命の危機的状態にある患者における看護を学ぶ。 生命の危機的状態とは、生体侵襲、手術療法を受ける患者を基本とし、生命の危険に対応するための異常の早期発見・合併症予防の理解が必要となる。救急現場においては、緊急性と重症度を判断するための適切な観察や、状態に応じた救命処置が必要となる。生命の危機的状態にある患者を理解するための基本的知識を学び、一時救命処置（BLS）に関しては演習を通し実践力の取得を目指す。		
授業科目の到達目標	1. 急性期看護の特徴と、生命の危機的状況にある患者と家族の看護の特徴が理解できる 2. 救急医療における看護の特徴について、理解できる 3. 一時救命処置（BLS）の手順・方法を理解し、実践できる 4. 周術期看護（術前看護・術中看護・術後看護）の特徴と、周術期にある患者と家族の特徴が、理解できる 5. 生命の危機的状態にある成人期の患者の特徴について、理解できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	急性期にある患者と家族の理解 ・急性期の概念 ・急性状態にある成人期の患者とその家族の特徴	講義	予習・復習
2	救急医療における看護 ・救急医療の概念 ・救急医療が必要な患者とその家族の特徴	講義	予習・復習
3	一次救命処置（BLS）の実際 ・心肺蘇生の目的と意義・組成ガイドライン ・成人に対する一人法 BLS の方法	講義	課題：BLS の手順 予習復習
4	一次救命処置（BLS）の実践【演習】 ・グループメンバーと協力し、アルゴリズムに沿って BLS を実践する	演習 クラス別 場所：実習室	予習・復習
5	二次救命処置（ACLS）の実際 ・二次救命処置（ACLS）の特徴 ・チームダイナミクスの理解	講義	予習・復習
6	集中治療における看護 ・集中治療室の特徴 ・集中治療が必要な患者とその家族の特徴	講義	予習・復習

7	周術期看護の概論 ・周術期看護の特徴 ・手術を受ける患者とその家族の特徴 ・手術および麻酔に伴う身体侵襲と生体反応	講義	予習・復習
8	術前看護の特徴 ・手術の意思決定への援助 ・不安の緩和、ボディイメージ変容に対する援助 ・術後合併症のリスクアセスメントと援助 ・手術前日、手術当日の看護	講義	予習・復習
9	ハイリスク患者の手術への影響とその看護 ・高血圧 ・糖尿病 ・肥満 ・喫煙 ・高齢者	講義	予習・復習
10	術中看護の特徴① ・手術室の安全管理、環境管理 ・手術室看護師(器械出し看護・外周り看護)の役割	講義	予習・復習
11	術中看護の特徴② ・開腹、開胸、開頭、鏡視(内視鏡)下の手術方法による影響とその援助 ・手術体位、麻酔による影響と援助 ・術直後の生体反応と必要な観察	講義	予習・復習
12	術後看護の特徴① 合併症の理解 ・呼吸器合併症 ・深部静脈血栓、肺塞栓症 ・術後イレウス ・術後出血 ・術後せん妄 ・縫合不全	講義	予習・復習
13	術後看護の特徴② 合併症の予防 ・術後の疼痛管理 ・早期離床の意義、早期回復への援助 ・合併症予防のための観察とアセスメント	講義	予習・復習
14	術後看護の特徴③ 創傷管理、ドレーン管理 ・創傷治癒過程と手術部位感染 ・創部の観察とアセスメント ・ドレーン留置中の観察とアセスメント	講義	予習・復習
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座「臨床外科看護総論」医学書院 系統看護学講座「臨床外科看護各論」医学書院
--------	---

参考書・資料 等	周手術期ぜんぶガイド 照林社 AHA ガイドライン 2020 準拠 ACLS(DVD) AHA ガイドライン 2020 準拠 BLS(DVD)
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般 基礎看護学概論 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ 臨床看護総論 人体の構造と機能 疾病治療論全般 成人看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	成人看護学方法論Ⅱ～Ⅴ 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 看護の統合と実践 看護の統合Ⅰ 看護の統合と実践 看護の統合Ⅱ
成績評価の方法	評価時期：終講試験 評価及び配分：木塚30点 松嶋30点 塚田25点 湯村15点
その他 受講生への要望等	急な展開を予測しながら洞察する力や、救命技術実践においては積極性や行動力、反射力を求めます。救急救命の演習ではチームワークも大切な要素であるためグループで共同して学びができるよう努力を求めます。尚、本科目の単位修得は、成人看護学実習の履修前提条件となります。

授業科目名	成人看護学方法論Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	障害発症後、急性期を脱した人々は、機能回復・生活の再構築・社会復帰に向けて専門的なリハビリテーション医療を行う時期へ移行する。看護師は、患者の健康レベル(経過)に応じて、必要なリハビリテーション看護を行う。 本来高いセルフケア能力をもつ成人に、疾病や受傷により機能障害や機能低下が生じた場合、それまでのセルフケアを見直し、再獲得・再構築することが必要となる。そのとき、自己概念や役割の変化も起こる。本科目では、あらゆる健康レベル(経過)にある対象が、再びその人らしく生きられるように、障害の適応および社会復帰に向けた看護を学ぶ。		
授業科目の到達目標	- 回復期・リハビリテーション期の対象と看護の特徴について、理解できる - 障害の適応および社会復帰に向けての看護の特徴について、理解できる - 各機能障害の対象のセルフケア再獲得に向けた看護について、理解できる - 障害に対する受容と適応への看護について、理解できる - チームアプローチと社会資源の活用方法について、理解できる - 患者の社会参加への支援について、理解できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	回復期・リハビリテーション期の特徴 回復期のリハビリテーションにおける看護の特徴 機能障害と分類	講義	予習・復習
2	障害の定義 障害がある人の障害の認識過程 ボディイメージの変化・障害受容に対する援助	講義	予習・復習
3	障害の適応と社会復帰に向けての看護 チームアプローチと社会資源の活用 リハビリテーション期にある患者の家族への看護 ADL 自立への援助技術	講義	予習・復習
4	脳,神経機能障害のある患者のセルフケア獲得への看護① (くも膜下出血) ・脳卒中の分類、くも膜下出血の病態生理、検査、治療 ・再出血、合併症のアセスメントと予防と看護	講義	予習・復習
5	脳,神経機能障害のある患者のセルフケア獲得への看護② (くも膜下出血) ・機能障害による日常生活動作のアセスメント ・意識障害、頭蓋内圧亢進ある患者の看護	講義	予習・復習
6	脳,神経機能障害のある患者のセルフケア獲得への看護③ ・運動麻痺のある患者の回復期、リハビリテーション期の看護 ・高次脳機能障害のある患者の回復期、リハビリテーション期の看護		

7	脳,神経機能障害のある患者のセルフケア獲得への看護④ (くも膜下出血) ・二次障害予防に必要な看護 (良肢位の支持・関節可動域訓練・筋力維持,増強訓練 座位訓練・歩行訓練・呼吸管理など)	講義	予習・復習
8	リハビリテーション看護技術① ・機能評価の方法 (意識・運動麻痺・瞳孔) ・麻痺のある患者の筋力低下予防	演習	予習・復習
9	心機能障害のある患者のセルフケア獲得への看護① (心筋梗塞) ・心筋梗塞の病態生理、検査、治療 ・心臓リハビリテーション	講義	予習・復習
10	心機能障害のある患者のセルフケア獲得への看護② (心筋梗塞) ・心機能障害(症状)のアセスメント ・日常生活への影響、セルフケア、再発予防のための看護	講義	予習・復習
11	運動器系障害のある患者のセルフケア獲得への支援① (骨折) ・骨折の病態、症状、治癒過程と治療 ・骨折のリハビリテーションプログラム	講義	予習・復習
12	運動器系障害のある患者のセルフケア獲得への支援② (骨折) ・廃用症候群予防に必要な看護 (関節拘縮・筋委縮・運動障害・運動麻痺) ・補助具,自助具の種類と活用	講義	予習・復習
13	運動器系障害のある患者のセルフケア獲得への支援③ (脊髄損傷) ・脊髄損傷の病態生理、治療 ・運動障害に対する受容と適応への看護 ・日常生活動作のアセスメントと援助	講義	予習・復習
14	リハビリテーション看護技術② ・関節拘縮予防技術 ・体位変換・良肢位の保持 (ベッド上でのポジショニング・ROM 訓練・ リラゼーションエクササイズ)	演習	予習・復習
15	終講時試験		

使用テキスト	系統看護学講座専門 成人看護学3 循環器 医学書院 系統看護学講座専門 成人看護学7 脳神経 医学書院 系統看護学講座専門 成人看護学 10 運動器 医学書院 系統看護学講座別巻 3 リハビリテーション看護 医学書院
--------	---

この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般 基礎看護学概論 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ 臨床看護総論 人体の構造と機能 疾病治療論全般 成人看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	成人看護学方法論Ⅰ Ⅲ Ⅳ Ⅴ 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 看護の統合と実践 看護の統合Ⅰ 看護の統合と実践 看護の統合Ⅱ
成績評価の方法	評価時期:定期試験 評価対象及び配分:筆記試験 押山60点 橋場40点
その他 受講生への要望等	本科目は、運動器・脳神経・心臓疾患に関する基礎知識をもとに、対象に必要な回復期・リハビリテーション期の看護を学びます。リハビリテーション看護技術の演習では、実践的な観察方法や援助技術を学びます。

授業科目名	成人看護学方法論Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	「慢性期」とは、健康状態が比較的安定はしているが、疾患の経過が長い、あるいは完全な治癒が望めない状況にあり、病と共に生活を営んでいくことが必要な時期である。 慢性疾患は大きく生活習慣病と難病に分けられる。疾患や障害と共に生活することでの、身体的・心理的・社会的影響を理解し、健康の増進・維持・回復に向けた看護を実践するために必要な知識を習得する。特に、成人が持つ多様な価値観や生活習慣を踏まえ、自己管理に向けてどう留意するべきか、対象に応じた自立とは何かを考えられることを目標とする。また、がん看護の医療の現状と、がんサバイバーシップに関する知識を身につけ、必要な治療と看護の特徴を学ぶ。		
授業科目の到達目標	1. 慢性疾患および治療が成人期の患者に及ぼす、身体的・心理的・社会的影響について理解できる 2. 慢性的な健康障害をもつ患者および家族への看護援助の基本となる、理論・概念(セルフケア理論・障害の受容過程・自己効力感・コンプライアンス・アドヒアランス・エンパワメント)が理解できる 3. 慢性疾患をもつ患者に行われる検査・治療の特徴と、アセスメントの視点について理解できる 4. セルフケアマネジメントやセルフケア再獲得に向けて援助方法について理解できる 5. がん医療を取り巻く現状と、がん患者に必要な治療と看護の特徴が理解できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	慢性期看護の基礎的知識 ・慢性疾患をもつ患者と家族の身体的・精神的・社会的特徴 ・慢性疾患をもつ患者と家族に必要な看護の特徴	講義 GW	予習・復習
2	呼吸器系の健康障害をもつ患者と家族の看護① ・慢性閉塞性肺疾患の患者の身体的・精神的・社会的特徴 ・慢性閉塞性肺疾患の患者に必要な検査・治療	講義	予習・復習
3	呼吸器系の健康障害をもつ患者と家族の看護② ・慢性閉塞性肺疾患の患者のアセスメントの視点 ・慢性閉塞性肺疾患の患者に必要な看護の実際	講義	予習・復習
4	消化器系の健康障害をもつ患者と家族の看護① ・肝硬変の患者の身体的・精神的・社会的特徴 ・肝硬変の患者に必要な検査・治療	講義	予習・復習

5	消化器系の健康障害をもつ患者と家族の看護② ・肝硬変の患者のアセスメントの視点 ・肝硬変の患者に必要な看護の実際	講義	予習・復習
6	内分泌・代謝系の健康障害をもつ患者と家族の看護① ・糖尿病の患者の身体的・精神的・社会的特徴 ・糖尿病の患者に必要な検査・治療	講義	予習・復習
7	内分泌・代謝系の健康障害をもつ患者と家族の看護② ・糖尿病の患者のアセスメントの視点 ・糖尿病の患者に必要な看護の実際	講義	予習・復習
8	腎・泌尿器系の健康障害をもつ患者と家族の看護① ・慢性腎不全の患者の身体的・精神的・社会的特徴 ・慢性腎不全の患者に必要な検査・治療	講義	予習・復習
9	腎・泌尿器系の健康障害をもつ患者と家族の看護② ・慢性腎不全の患者のアセスメントの視点 ・慢性腎不全の患者に必要な看護の実際	講義	予習・復習
10	難病・膠原病をもつ患者と家族の看護 ・リウマチの患者の身体的・精神的・社会的特徴 ・リウマチの患者に必要な検査・治療 ・リウマチの患者のアセスメントの視点と看護の実際	講義	予習・復習
11	感染症をもつ患者と家族の看護 ・HIV患者の身体的・精神的・社会的特徴 ・HIV 患者に必要な検査・治療 ・HIV患者のアセスメントの視点と看護の実際	講義	予習・復習
12	感覚器障害をもつ患者と家族の看護 ・熱傷・緑内障・メニエール病の患者の身体的・精神的・社会的特徴 ・熱傷・緑内障・メニエール病の患者に必要な検査・治療 ・熱傷・緑内障・メニエール病の患者のアセスメントの視点と看護の実際	講義	予習・復習
13	がん医療の現在と、がん患者の社会参加への支援 ・がん患者に関わる法律の制定とその実際 ・がんサバイバーシップケア ・がん患者の療養支援	講義	予習・復習
14	がん患者の治療と看護 ・化学療法 ・放射線療法 ・集学的治療	講義	予習・復習
15	終講時試験		

使用テキスト	系看 専門Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器 医学書院 系看 専門Ⅱ 成人看護学[5]消化器 医学書院 系看 専門Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝 医学書院 系看 専門Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院 系看 専門Ⅱ 成人看護学[11]アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 系看 専門Ⅱ 成人看護学[13]眼 医学書院 系看 専門Ⅱ 成人看護学[14]耳鼻咽喉 医学書院 別巻 がん看護学 医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般 基礎看護学概論 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ 臨床看護総論 人体の構造と機能 疾病治療論全般 成人看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	成人看護学方法論Ⅰ ⅢⅣⅤ 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 看護の統合と実践 看護の統合Ⅰ 看護の統合と実践 看護の統合Ⅱ
成績評価の方法	評価対象：筆記試験 鶴40点、川岸60点
その他 受講生への要望等	本科目の単位修得は、成人看護学実習の履修前提条件となります。

授業科目名	成人看護学方法論Ⅳ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2023 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	終末期とは、病気が現代医学では絶対に治癒しないという診断がなされた時から、命を全うするまでの期間のことである。この時期の患者は、全人的苦痛(トータルペイン)と共に、様々な喪失体験を経験し、同時にその家族も様々な危機に直面する。看護師は、緩和ケアの理念を理解し、多様な対象の終末期における苦痛と心理的プロセスを理解し、倫理的問題と意思決定支援に携わることが求められる。本科目を通し、看護ケア看護に必要な基礎的能力を習得し、自己の死生観が表現できることを目指す。		
授業科目の到達目標	1. 緩和ケアの理念および、終末期における緩和ケアの特徴について理解できる 2. 緩和ケアにおける看護師の専門性と責務、その役割を理解できる 3. 多様な対象や場における緩和ケアの特徴について理解できる 4. 全人的苦痛(トータルペイン)とその援助方法について理解できる 5. 緩和ケアを必要とする対象の家族が直面する課題と援助方法について理解できる 6. 緩和ケアにおいて看護職が遭遇する倫理的問題について、自己の考えを述べることができる 6. 終末期医療におけるチームアプローチの実際について、理解できる 7. 自己の死生観を表現できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	緩和ケアの歴史と世界的な発展 ・緩和ケア、ホスピスの歴史 ・日本における緩和ケアの現状 ・緩和ケアの展望	講義	予習・復習
2	緩和ケアにおけるチームアプローチ ・チーム医療の意義と必要性 ・チーム医療における多職種の役割 ・チーム医療における看護職の役割と責務	講義 グループワーク(課題 について話し合う)	課題:在宅緩和ケアの課題
3	緩和ケアにおける倫理的課題 ・生命倫理の 4 原則 ・SOL と QOL ・意思決定支援 ・終末期医療パターナリズム	講義 グループワーク(課題 について話し合う)	課題:自分が癌だったら、 家族が癌だったら、あなたは どうするか
4	緩和ケアにおけるコミュニケーション ・意思決定支援の場面と患者の特徴 ・看護師のコミュニケーションの意義 ・看護師のコミュニケーションスキル	講義 グループワーク(課題 について話し合う)	課題:家に帰りたいけれど…
5	多様な緩和ケアの対象とその援助方法 ・非癌性疾患の患者の緩和ケア (神経筋疾患,ALS 患者、慢性疾患の患者、進行性呼吸, 循環器疾患の患者,維持透析,透析中止の患者)	講義 グループワーク(課題 について話し合う)	課題:ALS 患者の軌跡

	・小児の緩和ケア (小児がん、心疾患、先天性疾患、染色体異常筋ジストロフィー、超重症児) ・高齢者の緩和ケア		
6	緩和ケアにおける看護介入 ・看護介入とはなにか 看護に求められるストラテジー 患者が死を語る時 ・日常生活を整える看護介入 (生活調整、個別性、排泄、睡眠、清潔、環境、タッチング、電法、マッサージ、ポジショニング、気分転換法)	講義 グループワーク(課題 について話し合う)	課題)患者さんにこう言われたらどう しますか
7	緩和ケアにおける身体的ケア① ・症状緩和の考え方と実践 主要な身体的症状のマネジメントとケア 早期から癌性疼痛ケアの必要性 医療用麻薬と不正麻薬の違い 倦怠感・呼吸困難・便秘の治療とケア	講義 グループワーク(課題 について話し合う)	課題)あなたが医師から麻薬を飲み ましようと言われたら ↓ 事例 A さんにまずどのような対 応をするか
8	緩和ケアにおける身体的ケア② ・疼痛緩和の看護 疼痛の評価、オピオイド鎮痛薬の主な作用と対策、レス キュードーズのタイミング	講義	予習・復習
9	緩和ケアにおける精神的ケア ・対処機構と防衛機構 ・おもな精神的症状の診断とケア (適応障害・うつ病・せん妄)	講義 グループワーク(課題 について話し合う)	課題:もしあなたが…
10	緩和ケアにおける社会的ケア ・社会的苦痛 社会的苦痛に対するアプローチ ライフレビューについて	講義 グループワーク(課題 について話し合う)	課題:患者 A さんの事例から考える
11	緩和ケアにおけるスピリチュアルケア ・スピリチュアリティとは スピリチュアルペインとは スピリチュアルケアの実践	講義	課題:スピリチュアルペインの実際・ケ アプランの立案
12	緩和ケアにおける家族ケアのあり方 ・家族が辿る心理的プロセス 家族のアセスメントと援助方法 予期悲嘆、グリーフケア	講義	課題:知りたい、安心感を与えるケ ア、役に立ちたいニーズ、自分 自身を保つニーズに合わせた 声掛け
13	緩和ケアにおける看護師の専門性と責務 ・卒前教育 認定看護師 専門看護師	講義 GW「看護の専門性に ついて」	課題:看護の専門性 ↓ 看護教育の中で緩和ケア 教育がどのように行われ ているか整理する

14	看護学生としての自己の死生観 ・DVD 鑑賞:奇跡のホスピス,人生の忘れ物って何ですか？	講義	予習・復習
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般 基礎看護学概論 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ 臨床看護総論 人体の構造と機能 疾病治療論全般 成人看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	成人看護学方法論Ⅰ ⅢⅣⅤ 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 看護の統合と実践 看護の統合Ⅰ 看護の統合と実践 看護の統合Ⅱ
成績評価の方法	終講試験 黒川60点 栃木40点
その他 受講生への要望等	本科目では、終末期における様々な事例を通し、緩和ケア看護に必要な基本的知識や技術を学ぶ。 グループワークの課題を通し、緩和ケアにおいて大切な視点を学ぶため、各自主体性を持って意見交換ができることを望む。 尚、本科目の単位修得は、成人看護学実習の履修前提条件となります。

授業科目名	成人看護学方法論Ⅴ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	成人期にある対象の発達段階・発達課題として、生産的な活動が活発な時期であり、社会的役割・家庭的役割を多く担っている。一方で、身体予備能が低下する時期であり、これまでの生活習慣の蓄積から様々な健康問題が表れる時期でもある。看護師は、成人期の特徴や健康上の課題をふまえた看護の思考過程を身につけることが求められる。 本科目は、周術期にある対象と、慢性疾患によりセルフマネジメントが必要な対象の 2 事例を用い、演習を取り入れた看護過程の展開を実践する。		
授業科目の到達目標	1. 各健康段階にある成人期の対象とその家族の、身体的側面・精神的側面・社会的側面の特徴が理解できる 2. 各期の特徴を踏まえ、個別性に応じた看護過程が展開できる 3. 成人期の対象に合った看護計画を立案することができる 4. 事例患者の個別性に沿った看護計画を立案することができおる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	・周術期看護の特徴 ・術前看護の特徴	講義	予習・復習 課題あり
2	・周術期実習での、疾患に関する事前学習の要点 ・課題(様式 1 号 2 号)の内容確認、補足説明 ・周術期の看護問題 # 術前アセスメントの考え方	講義	予習・復習 課題あり
3	・課題(様式 4 号)の内容確認、補足説明 ・周術期の特徴を踏まえた、病態関連図の考え方 (手術侵襲、麻酔による身体的な影響)	講義	予習・復習 課題あり
4	・周術期の特徴を踏まえた、病態関連図の考え方 (術後合併症の病態生理)	講義	予習・復習 課題あり
5	・周術期実習での、術後合併症に関する事前学習の要点 ・周術期の看護問題 # 術後アセスメントの考え方 (無気肺)	講義	予習・復習 課題あり
6	・周術期の看護問題 # 援助計画の考え方、書き方①	講義	予習・復習 課題あり
7	・周術期の看護問題 # 援助計画の考え方、書き方②	講義	予習・復習 課題あり
8	・健康段階別看護の特徴と方向性 (急性期・回復期・慢性期・終末期)	講義	提出物: なし 配布物: 授業資料

	・事前知識の活用と重要性 (病理的狀態の意図的な情報収集)		既習の「臨床看護総論」を 復習して臨むこと
9	・慢性閉塞性肺疾患(COPD)事例の読み合わせ ・事前知識の活用と重要性	講義 全体ディスカッション	提出物:なし 配布物: 様式1号/様式2号/様式 3号/様式5号 授業資料
10	・慢性閉塞性肺疾患(COPD)の患者と家族への看護 慢性期の看護過程の特徴と考え方 ・常在条件、病理的狀態、関連図の確認 (様式1号/様式2号/様式3号/様式5号) ・基本的二ードの優先順位の考え方(様式4号)	講義 全体ディスカッション	提出物: 様式1号/様式2号/様式 3号/様式5号(関連図) 配布物: 様式4号/授業資料
11	・慢性閉塞性肺疾患(COPD)の患者と家族への看護 慢性期の看護過程の特徴と考え方 ・基本的二ードの確認(様式4号) ・慢性期の看護計画立案の特徴と考え方(様式6号)	講義 全体ディスカッション	提出物: 様式4号用紙提出 配布物: 様式6号/授業資料
12	・#看護問題別でグループに分かれ意見交換を行う 個人学習で考えてきた看護計画(様式6号)を 持ち寄り発表し合う。 個人の看護計画(様式6号)を完成させる	講義 グループ学習 ディスカッション	提出物:様式6号 配布物:授業資料
13	・#看護問題別でグループに分かれ意見交換を行う 個人学習で考えてきた看護計画(様式6号)を 持ち寄り発表し合う。 個人の看護計画(様式6号)を完成させる	講義 グループ学習 ディスカッション	提出物:様式6号 配布物:授業資料
14	・成人看護過程に対するまとめ	講義	提出物:様式1～6号 配布物:授業資料
15	終講試験 まとめ	筆記試験	

使用テキスト	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ノーベルヒロカワ 専門Ⅱ 成人看護学 消化器 医学書院 専門Ⅱ 成人看護学 呼吸器 医学書院 臨床外科看護総論 医学書院 臨床外科看護各論 医学書院 くすりのポケットブック 検査値ガイドブック サイオ出版
この授業科目の前提と なる主な科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ 疾病治療論Ⅰ～Ⅴ 成人看護学方法論Ⅰ～Ⅳ 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ 臨床看護総論 基礎看護学実習
この授業科目から発展 する主な科目	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 看護の統合と実践Ⅲ 看護の統合実習
成績評価の方法	鵜(50点) 内訳:看護過程課題 35点、筆記試験 15点(25分)

	塚田(50点) 内訳:看護過程課題 35 点、筆記試験 15 点(25 分) *授業参加度は出席で各1点 *看護過程の評価は指定された時間で課題を提出すること。時間厳守
その他 受講生への要望等	授業の内容は臨地時実習に継続されるため、自らが主体的に課題に取り組めるよう努力を求める。グループ学習は積極的に参加すること。

授業科目名	老年看護学方法論Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024 年	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	加齢変化・健康障害の程度に応じた効果的な看護を展開するための看護援助の方法並びに援助技術について学び、実践へつなげていきます。		
授業科目の到達目標	1. 高齢者に特有な症候・障害に対する看護を説明できる。 2. 1. の状態にある高齢者のためのアセスメント方法、残存機能を活かした日常生活援助技術を修得する。 3. 2 を修得し、高齢者の心理に気づくことで、高齢者を尊重した態度を身に付ける重要性を表現することができる。 4. 高齢者その人に合ったコミュニケーションを図る方法を修得する。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歩行・移動の援助 講義：歩行・移動動作のアセスメント、歩行・移動動作の援助 使用テキスト： ①第5章 A 日常生活を支える基本的活動①基本動作と環境のアセスメント	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する
2	転倒・骨折予防の援助 講義：転倒・転落の発生要因、転倒・転落の予防のための援助 使用テキスト： ①第5章 A 日常生活を支える基本的活動②転倒のアセスメントと看護 ②第2章 老年症候群 D おもに ADL 低下に合併する症候 ①転倒・骨折 ③環境調整技術	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する
3	廃用症候群予防の援助 講義：廃用症候群の病態と要因、廃用症候群予防のためのアセスメント、廃用症候群予防のための援助 使用テキスト： ①第5章 A 日常生活を支える基本的活動③廃用症候群のアセスメントと看護	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する
4	コミュニケーション障害への援助Ⅰ 講義：コミュニケーションを阻害する影響要因（視覚障害・聴覚障害） コミュニケーション能力のアセスメント 使用テキスト： ①第5章 F コミュニケーション	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する

5	コミュニケーション障害への援助2 講義：高齢者とのコミュニケーションの方法 使用テキスト： ①第5章 F コミュニケーション ③情報・ヒストリー聴取の技術	講義 演習	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する
6	食事の援助 1 講義：低栄養状態のアセスメント 使用テキスト： ①第5章 B 食事・食生活 ③栄養・食事援助技術	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する
7	食事の援助 2 講義：摂食・嚥下障害のアセスメント、摂食・嚥下障害への援助 使用テキスト： ①第5章 B 食事・食生活 ②第 2 章 老年症候群 D おもに ADL 低下に合併する症候④嚥下障害、 第 4 章 高齢者の疾患の特徴 M 歯・口腔の疾患	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する
8	食事の援助 3 講義：誤嚥性肺炎の予防と援助 使用テキスト： ①第5章 B 食事・食生活 ②第 4 章 高齢者の疾患の特徴 D 呼吸器系の疾患①高齢者肺炎	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する
9	排泄の援助 講義：排泄（尿失禁、便秘・下痢）のアセスメント、尿失禁への援助 便秘・下痢の予防と援助 使用テキスト： ①第5章 C 排泄 ②第 2 章 老年症候群 D おもに ADL 低下に合併する症候②排尿障害・便秘 ③排泄援助技術	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する
10	睡眠・休息への援助 講義：生活リズムを調整する意義、活動と休息のアセスメント、 高齢者の睡眠の特徴 使用テキスト： ①第5章 E 生活リズム ③活動・休息援助技術	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する
11	清潔・衣生活の援助 1 講義：清潔の意義、清潔・衣生活のアセスメント、清潔・衣生活の援助、 入浴時の援助・入浴事故 使用テキスト：	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する

	①第5章 D 清潔 ③清潔・衣生活援助技術		
12	清潔・衣生活の援助 2 講義：老年者に特徴的な皮膚の障害 使用テキスト： ①第5章 D 清潔 ②第4章 高齢者の疾患の特徴 K 皮膚の疾患の特徴 ③皮膚管理技術	講義	講義内容に沿ったテキストの内容を精読する
13	技術の統合 口腔ケア・義歯の取り扱い 寝衣交換・おむつ交換 各ポジショニングの体圧測定	演習 クラス別	講義で修得した既習の知識と基礎看護学の技術を統合し、実施する技術の事前レポートを記載し、演習に臨む。演習後の振り返りレポートの提出あり。
14			
15	終講試験		

使用テキスト	①系統看護学講座専門Ⅱ老年看護学/医学書院 ②系統看護学講座専門Ⅱ老年看護病態・疾患論/医学書院 ③パーフェクト臨床実習ガイド老年看護/照林社 ④成人・老年看護実習クイックノート
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	老年看護学概論・基礎看護学方法論Ⅲ・基礎看護学方法論Ⅰ・基礎看護学方法論Ⅳ 基礎看護学方法論Ⅱ・人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ
この授業科目から発展する主な科目	老年看護学方法論Ⅲ・老年看護学実習Ⅰ・老年看護学実習Ⅱ
成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象及び配分：試験90点 課題レポート10点
その他 受講生への要望等	この科目は、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱに繋がる講義・演習です。老年看護学実習において対象に合った日常生活援助を提供するために必要な知識・技術を習得することが主要となります。この科目での学びを基に老年期にある人の日常生活状況や生活史に関心がもてるようになることを期待します。

授業科目名	老年看護学方法論Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	8回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	様々な健康段階にある高齢者について理解を深め、効果的な看護を展開するためのアセスメント技術を修得します。		
授業科目の到達目標	1. 様々な健康状態にある高齢者への看護援助方法が理解できる。 2. 受療状況に応じた高齢者の看護援助方法が理解できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	老化や疾病と共存しながら健康状態を維持するための看護 健康の維持と介護予防 講義：健康の維持増進、受療状況 介護予防の促進と評価、フレイル 使用テキスト：	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
2	外来を受診する高齢者の看護 講義： 外来受診時の高齢者の特徴、診察時の援助 疾病・治療の理解と治療継続への援助 使用テキスト：	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
3	講義：高齢者の入院時の援助、検査時の援助 使用テキスト： ①第 7 章 A 検査を受ける高齢者の看護、E 入院治療を受ける高齢者の看護 ②第 3 章 F 高齢者の総合機能評価 ③退院支援、リロケーションダメージへの支援	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
4	急性期にある高齢者への看護 講義：周術期にある高齢者への援助 使用テキスト： ①第 7 章 C 手術療法を受ける高齢者の看護	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
5	回復・慢性期にある高齢者への看護 講義：残存機能と評価の方法、リハビリテーションを受ける高齢者の看護 使用テキスト： ①第 7 章 D リハビリテーションを受ける高齢者の看護 ②第 6 章 高齢者のリハビリテーション	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。

6	薬物療法を受ける高齢者への看護 講義：加齢に伴う薬物動態の変化、薬物療法を受ける高齢者の援助 使用テキスト： ①第 7 章 B 薬物療法を受ける高齢者の看護 ②第 5 章 高齢者と薬 ③与薬の技術	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
7	終末期にある高齢者への看護 講義：人生の最終段階(エンド・オブ・ライフ)にある高齢者と家族への援助 使用テキスト： ①第 8 章 エンドオブライフケア ②終章 ③終末期を迎える高齢者の支援	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する
8	終講試験		

使用テキスト	①系統看護学講座専門Ⅱ老年看護学/医学書院 ②系統看護学講座専門Ⅱ老年看護病態・疾患論/医学書院
参考書・資料 等	パーフェクト臨床実習ガイド老年看護/照林社
この授業科目の前提となる主な科目	老年看護学概論・臨床看護総論・基礎看護学方法論Ⅰ・人体の構造と機能Ⅳ 基礎看護学方法論Ⅱ・疾病治療論Ⅴ(脳神経系の疾患)・基礎看護学方法論Ⅴ 精神看護学方法論Ⅱ(認知症)
この授業科目から発展する主な科目	老年看護学方法論Ⅱ・老年看護学方法論Ⅲ・老年看護学実習Ⅰ・老年看護学実習Ⅱ
成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象および配分：試験 100 点 レポート課題については指定された期日に提出されない場合、0 点となります。
その他 受講生への要望等	講義および自己学習をととして老年看護学実習Ⅰ、看護過程展開演習に活用できる基本的知識を身に付けることを期待します。

授業科目名	老年看護学方法論Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	加齢に伴う変化、慢性疾患、健康障害をもちながら、老年期にある人が、その人らしく生活することを支える看護過程の展開方法を学習します。		
授業科目の到達目標	1. 老年期に特徴的な疾病や病態を理解し、高齢者およびその家族を対象とした看護援助方法が理解できる。 2. 事前学習を基にアセスメントに必要な情報を選択し、記載することができる。 3. 現疾患の原因・誘因を加齢変化や既往歴・併存疾患と関連づけて記述できる。 4. 主要症状の原因と受けている治療の目的を、加齢変化や高齢者の疾患の特徴と関連づけて記述できる。 5. 健康障害・加齢変化が基本的欲求に及ぼす影響について記述できる。 6. 対象の健康段階に応じた優先順位の決定・目標設定が記述できる。 7. 加齢変化や併存疾患による症状に考慮した看護計画が立案できる。 8. 加齢変化・健康障害をもちながらも地域でその人らしく暮らすために必要な社会資源を記述できる。 9. 老年期にある人の生活史や時代背景に関連する価値観について深く考えることをとおして自己の老年観を養う。 10. 自ら学習計画を立て実施できる自己学習能力、グループワークをとおして他者を理解し、自己を表現できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	老年症候群1：高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護 講義：熱中症、脱水症、発熱 使用テキスト： ①第6章 A 症候のアセスメントと看護①発熱、④脱水 ②第2章 B おもに急性疾患に付随する症候③熱中症、④脱水症、 ⑤発熱	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する
2	老年症候群2：高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護 講義：うつ(病)、せん妄 使用テキスト： ①第6章 C 認知機能障害のある高齢者の看護①うつ、②せん妄 ②第4章 高齢者の疾患の特徴 B 精神・神経疾患③うつ状態(うつ病)	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する

3	老年症候群3：高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護 講義：パーキンソン症候群 使用テキスト ①第6章 B パーキンソン病・パーキンソン症候群 パーキンソン病の看護、パーキンソン症候群の看護 ②第4章 B パーキンソン病 講義：肺炎 使用テキスト ①第6章肺炎、肺炎の看護 ④第5章肺炎	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する
4	高齢者に特有な疾患(感染症) 講義：インフルエンザ、ノロウイルス 使用テキスト： ①第6章 B 身体疾患のある高齢者の看護⑦インフルエンザ ②第4章 N 感染症 ③集団感染予防の技術	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する
5	高齢者に特有な疾患(認知症)1 講義：認知症の病態、認知症の症状と経過、認知症の治療と療法的アプローチ、認知機能および生活機能の評価 使用テキスト： ①第6章 C 認知機能障害のある高齢者の看護③認知症 ②第4章 高齢者の疾患の特徴 A 認知症 ③認知症高齢者の理解・支援	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する
6	高齢者に特有な疾患(認知症)2 講義：認知症高齢者とのコミュニケーション方法、 認知症看護の原則、急性期一般病床での援助 行動・心理症状と生活への影響、認知症をもつ 高齢者を介護する家族への支援とサポートシステム 使用テキスト： ①第6章 C 認知機能障害のある高齢者の看護③認知症 ③認知症高齢者の理解・支援	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する
7	老年看護学における看護過程の考え方 看護過程展開に必要な事前学習の内容確認 <u>私のイメージする老年観とは</u> <u>事例の患者説明・情報の読み取り</u> 【現疾患】誤嚥性肺炎 【併存疾患】高血圧・ラクナ梗塞・認知症 配付資料：紙上事例	講義	【夏期休暇中の課題】 ・肺の構造・誤嚥性肺炎・肺炎急性期の看護についてレポートにまとめる。 ・個人目標立案 ・基本情報を基に看護過程様式1号を記入する。

	老年看護学記録：看護過程様式1号(常在条件) ①高齢者理解シート 使用テキスト： ①第6章 B 身体疾患のある高齢者の看護⑧肺炎 ②第4章 D 呼吸器系の疾患①高齢者肺炎 ④第2章 A 呼吸器の構造、B 呼吸の生理、第5章 A 感染症 ③肺炎、第6章 E 疾患をもつ患者の看護①肺炎患者の看護		以上を、夏期休暇明けに提出。 提出 ・看護過程様式1号 ・夏休み明け：事前学習
8	老年期にある人の<u>病理的状态</u>のアセスメント 検査-データ・治療内容のアセスメント <u>経過表記載方法</u> <u>関連図</u> 事前学習の病態関連図、紙上事例の情報から全体関連図を作成(事例情報を関連図に追加し全体関連図に仕上げる) 配布資料：看護過程様式2号(病理的状态)3号(経過表)5号(関連図) 使用テキスト： ①第1章 ②加齢に伴う身体的側面の変化、第6章 B 身体疾患のある高齢者の看護⑧肺炎、第7章 B 薬物療法を受ける高齢者の看護 ②第4章 D 呼吸器系の疾患①高齢者肺炎、第3章 D 検査 ③血液検査 ③I 高齢者看護の基本技術 与薬の技術 ④第5章 A 感染症③肺炎 エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図 検査値ガイドブック その他高血圧・ラクナ梗塞・認知症については①②③および系統看護学講座専門Ⅱ成人看護学[3]循環器・[7]脳・神経参照。 【キーワード】 高齢者の疾病の特徴・高齢者の血液データ・加齢に伴う薬物動態の変化	講義 個人ワーク(紙上事例)	看護過程様式2号 ・情報の記入および情報の読み取り ・血液検査項目の名称・基準値の記入 看護過程様式2号、3号、5号 提出 看護過程様式2号
9	<u>紙上事例患者の、全体像をとらえる</u> <u>老年看護学様式1号：高齢者マップ</u> ・加齢に伴う感覚機能の変化をふまえたコミュニケーション能力のアセスメント ・環境による影響をアセスメントする(転倒・転落のリスクアセスメント) ・加齢に伴う社会的側面の変化をふまえた社会的役割の状態のアセスメント	講義・演習 個人ワーク グループワーク	

	関連図に追加 配布資料：老年看護学様式1号：高齢者マップ 使用テキスト： ① 第1章 C 老いを生きること②発達と成熟、 第4章 B 身体の変齢変化とアセスメント②視聴覚とそのほかの感覚 第5章 F コミュニケーション、A 基本動作と環境のアセスメント ②転倒のアセスメントと看護 ② I 高齢者看護の基本技術 安全管理の技術 ①第5章 H 社会参加、 第9章 C 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 老年看護学概論講義資料 【キーワード】 ・加齢に伴う視聴覚機能の変化、転倒の内的・外的要因 ・加齢に伴う社会的側面の変化、老年期の発達課題、生きがい、家族の役割と機能		
10	<u>高齢者のもつ価値観</u> 関連図に追加 使用テキスト： ① 第4章ヘルスアセスメントの基本①ヘルスアセスメント の枠組み⑤生活史のアセスメント <u>地域で暮らすための社会資源の活用</u> 使用テキスト： ①第2章②高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 ③高齢者とソーシャルサポート、B 高齢社会における保健医療福祉の動向②介護保険制度の整備、第8章エンドオブライフケア ③Ⅱ高齢者の生活支援 介護家族支援・終末期を迎える高齢者の支援 地域療養を支えるケア/メディカ出版 【キーワード】 エンドオブライフケア・高齢者の人間らしさを守るケアの基本 高齢者の生きてきた時代背景	演習 個人ワーク グループワーク	提出 老年看護学様式1号：高齢者マップ
11	<u>高齢者の特徴を踏まえた14項目のアセスメント</u> 必要な視点(体力・意思力・知識を意識する)を考える ①紙上事例の情報から事例患者の未充足を考える ② 未充足となる項目とそれに関連する項目の分析 ③ 未充足の優先順位	講義 演習 個人ワーク グループワーク	

	配付資料：看護過程様式4号 個人ワーク 使用テキスト：老年看護学方法論Ⅱ講義資料		
12	<u>主項目・関連項目の分析・解釈し、必要な看護を見出す</u> 配付資料：看護過程様式6-1号、6-2号 個人ワーク 使用テキスト：老年看護学方法論Ⅱ講義資料	講義 演習 個人ワーク グループワーク	
13	<u>#1看護計画立案</u> <u>個人ワーク</u> 【キーワード】 安全・安楽、日常生活の継続、自立生活の維持・拡大、 多職種との連携	講義 演習 個人ワーク グループワーク	個人ワーク グループワーク 意見交換した内容を個人ワークの追加・修正し指定の日時に提出
14	<u>#1看護計画立案</u> <u>グループワーク、発表</u> <u>個人ワークの追加・修正</u> 活動と休息のバランスに考慮した行動計画の考え方 用テキスト： ①第5章 E 生活リズム ③Ⅰ高齢者看護の基本技術 活動・休息援助技術 ⑤P105 日々の行動計画 【キーワード】 安全・安楽、日常生活の継続、自立生活の維持・拡大、 多職種との連携、生活リズムの回復・治療計画との調整	講義 演習 グループワーク	グループワーク 意見交換し個人ワークの追加・修正し指定の日時に提出 提出 看護過程様式6-1号 看護過程様式6-号
15	終講試験・看護過程展開全体のまとめ 使用テキスト：⑤P146 参考資料 老年看護学実習Ⅱ記載例	筆記試験 講義	看護過程展開全体をとおし ての振り返り、講義終了時にこれまでの課題全てを最終提出。

使用テキスト	①系統看護学講座専門Ⅱ老年看護学/医学書院 ②系統看護学講座専門Ⅱ老年看護病態・疾患論/医学書院 ③パーフェクト臨床実習ガイド老年看護/照林社 ④系統看護学講座専門Ⅱ成人看護学[2]呼吸器/医学書院 ⑤看護過程を使ったハンダーソン看護論の実践/ヌーヴェルヒロカワ ⑥成人・老年看護学実習クイックノート
参考書・資料 等	検査値ガイドブック/サイオ出版 老年看護学概論、老年看護学方法論Ⅰ・Ⅱ講義資料
この授業科目の前提となる主な科目	老年看護学概論・老年看護学方法論Ⅰ・老年看護学方法論Ⅱ・老年看護学実習Ⅰ

この授業科目から発展する主な科目	老年看護学実習Ⅱ
成績評価の方法	評価時期：課題については、その都度採点します。 評価対象および配点：小堀40点 小林60点 レポート課題が提出されない場合は0点となります。また、他人の記録のコピーや書き写し、データの使いまわし等があった場合は、該当課題を評価外とします。
その他 受講生への要望等	現在みえている患者像は疾患の経過においても人生においても一過程です。老年期にある対象を様々な側面からアセスメントすることで、対象から語られることのない体験・価値観について想像する力を養うことを期待します。老年看護学実習Ⅱと同じ記録様式を用いて進めていくため、この講義の中で老年期にある人の看護過程展開が理解できるようにしましょう。毎回資料を配付しますので、各自A4サイズのリングファイルを準備し管理して下さい。

授業科目名	小児看護学方法論 I		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	小児看護学概論で学んだ成長発達概念と各時期の特徴をベースとし、健康な子どもの人体の構造と機能、栄養、遊びの意義について学習し、それらを発展させ、子どもが健康な生活を送るために必要な援助を理解します。また、実際にロールプレイを行い子どもと関わるための基礎的な実践能力も養います。		
授業科目の到達目標	1.小児の人体の構造と機能の特徴を述べることができる 2.小児の栄養の特徴と援助方法について述べることができる 3.思春期の特徴と性教育について考えることができる 4.小児各期の特徴を踏まえた関わり方や支援について討論することができる 5.小児の状況に応じた関わり方についてロールプレイができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	小児の人体の構造と機能① 呼吸 循環 体温 消化器	講義	該当部分の人体の構造と機能を復習した上で授業に臨むこと
2	小児の人体の構造と機能② 血液・免疫 水分出納 神経 皮膚 感覚器	講義	該当部分の人体の構造と機能を復習した上で授業に臨むこと
3	小児の栄養と食事援助 子どもにとっての栄養の意義 食事摂取基準 発達段階別の子どもの栄養	講義 体験学習 (離乳食の試食)	
4	乳幼児期の親子関係 小児の母子相互作用 家族の育児技術支援	講義 動画視聴	
5	小児と関わるための基礎知識(主に乳幼児期) 遊びの意義と発達支援 小児とのコミュニケーション	講義 動画視聴	
6	学童期～思春期の特徴と看護 身体的特徴 健康増進のための関わり	講義 動画視聴	概論で学習した成長・心理社会的側面を復習した上で授業に臨むこと
7	子どもの特徴を踏まえた関わり方と支援 グループで場面設定を行い、関わり方と支援について発表する。	ロールプレイ発表	構成や内容を検討するグループワークは課題学習等の時間を活用
8	終講試験	試験	

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児看護学総論 医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 第2版 照林社 小児看護実習クイックノート
--------	---

参考書・資料 等	小児看護学概論配布時の成長発達に関するプリント 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学(2)基礎看護技術Ⅰ 医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ 栄養学 基礎看護学方法論Ⅱ 小児看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	小児看護学方法論Ⅱ～Ⅲ 母性看護学方法論Ⅲ 小児看護学実習
成績評価の方法	評価方法:筆記試験+グループワークの成果+ロールプレイ 評価配分:ペーパー試験(90点) グループワーク・ロールプレイ(10点)
その他 受講生への要望等	1. 既習の知識が理解できていることが前提で授業を構成しています。よって、各授業の前にはベースとなる既習の部分を復習した上で授業に臨むようにして下さい。 2. ロールプレイでは恥ずかしがらず、それぞれの役になりきって演じて下さい。

授業科目名	小児看護学方法論Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	①医師 ②看護師
開講年度	2024年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	小児の成長・発達に伴う解剖学的、生理学的な変化を念頭に、小児疾患とそれに伴う合併症について理解を深めます。さらに、健康障害が小児や家族に及ぼす影響について学びを深め、小児看護に共通する看護展開の基礎的知識・技術を身につけます。		
授業科目の到達目標	1.小児特有の疾患・障害と成長発達の因果を関連付け説明することができる。 2.各疾患・障害の主な症状について述べるができる。 3.各疾患・障害の主な検査と結果について述べるができる。 4.各疾患・障害の主な治療方法について述べるができる。 5.健康障害が小児や家族に与える影響について解釈を述べるができる。 6.小児の成長発達を考慮した看護計画について見解を示すことができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	小児救急、トリアージ 呼吸障害・ショック・意識障害の評価と対応 ＊総論第 4、5 章 配布資料	講義	予習・復習
2	染色体異常、先天感染 ダウン症候群、ターナー症候群、先天性風疹症候群 ＊各論第 1、6 章 配布資料	講義	予習・復習
3	内分泌疾患 成長障害と下垂体疾患、甲状腺疾患 ＊総論第 2 章、各論第 4 章 配布資料	講義	予習・復習
4	免疫疾患・アレルギー性疾患 原発性免疫不全症、食物アレルギー、気管支喘息 ＊各論第 5 章 配布資料	講義	予習・復習
5	感染症 ウイルス感染症、細菌感染症と予防接種 ＊各論第 6 章 配布資料	講義	予習・復習
6	呼吸器疾患、事故 上・下気道疾患、気道異物 ＊各論第 7、19 章 配布資料	講義	予習・復習
7	循環器疾患 先天性・後天性心疾患、川崎病 ＊各論第 8 章 配布資料	講義	予習・復習
8	消化器疾患 肥厚性幽門狭窄症、腸重積症、鎖肛、ヒルシュスブルング病 食道閉鎖症 ＊各論第 9 章 配布資料	講義	

9	腎・泌尿器疾患、脱水症 先天性腎尿路奇形、糸球体疾患、Wilms 腫瘍、小児の脱水 ＊総論第 5 章、各論第 12 章 配布資料	講義	
10	神経疾患 けいれん性疾患、中枢神経感染症、筋疾患 ＊各論第 13 章 配布資料	講義	
11	精神疾患 発達障害(注意欠如多動症、自閉症スペクトラム障害) 神経性食思不振症 ＊各論第 18 章 配布資料	講義	
12	小児・家族の病気や入院の捉え方と介入方法 年齢別の病気の認識 認識に応じた関わり方	講義	
13	小児看護領域における看護計画の特徴① 観察計画立案の方法 援助計画立案の方法	講義	
14	小児看護領域における看護計画の特徴② 指導計画立案の方法 水分出納把握の方法	講義	
15	終講試験	筆記試験	

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児看護学総論 医学書院
参考書・資料 等	小児看護学概論配布時の成長発達に関するプリント 小児看護学方法論Ⅰ 配布時の小児の人体の構造と機能のプリント
この授業科目の前提となる主な科目	疾病治療論Ⅰ～Ⅴ 基礎看護学方法論Ⅵ 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	小児看護学方法論Ⅲ 母性看護学方法論Ⅲ 小児看護学実習
成績評価の方法	評価時期:終講試験…授業最終回 評価配分:試験(島村:50 点、湯村:50 点)
その他 受講生への要望等	1.基礎となる科目の理解の上で授業が進んでいきます。よって、シラバスを毎回参照し、該当する部分の基礎となる科目の範囲を予習して授業に臨んで下さい。 2.小児看護の基礎知識となります。復習を行い知識の定着を図って下さい。

授業科目名	小児看護学方法論Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	健康な子どもの理解に基づき、健康問題が子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、療養状態に応じた看護を知識だけでなく、実践的側面も併せて学習を行います。また、それらの知識を統合して、成長発達の過程にある小児期の看護過程展開について学びます。		
授業科目の到達目標	1.子どもの健康段階に応じた一般的な看護について記述することができる。 2.健康障害や入院が子どもと家族に与える影響について説明することができる。 3.小児病棟で必要な基礎看護技術について根拠に基づいて実行することができる。 4.小児看護過程の特徴について気づきを示すことができる。 5.ポイントに従って小児看護過程を展開することができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	小児の安全について 誤飲 溺水 熱傷 心肺蘇生 *各論第 19 章 総論第 6 章 C-⑩	講義	
2	新生児の看護 低出生体重児の看護 NICU の実際 *各論第 2 章	講義	
3	手術を受ける子どもの看護 特徴 身体的,心理的,家族ケア 臨床での実際 *総論第 3 章 C	講義	
4	急性症状のある子どもの看護① 特徴 看護師の役割 フィジカルアセスメント(呼吸,循環) *総論第 3 章 B・第 4 章 B・第 5 章④～⑦	講義	
5	急性症状のある子どもの看護② 疼痛・呼吸困難・発熱・脱水を有する小児の看護 *総論第 4 章・第 5 章③④⑨⑬	講義	
6	慢性疾患をもつ子どもの看護① 特徴 慢性状態の子どもと家族の看護 白血病 *総論第 3 章 A 各論第 11 章 B-2・C-1	講義	
7	慢性疾患をもつ子どもの看護② 糖尿病 ネフローゼ症候群 小児の在宅医療 *各論第 3 章 C-1 第 12 章 C-1 総論 2 章 C	講義	
8	予後不良の子どもの看護 特徴 子どもの死の捉え方 子どもと家族の看護 *総論第 3 章 D	講義	
9	【学内演習】小児看護に必要な技術① 点滴準備(輸液ポンプ) シーネ固定 *パーフェクト P173～P188	学内演習	

10	【学内演習】小児看護に必要な技術② 与薬 行動制限 ＊パーフェクト P156～166.179 総論第 6 章 C-3	学内演習	
11	【学内演習】小児病棟における危険予知トレーニング 小児における不慮の事故の種類と原因 ＊各論第 19 章 国民衛生の動向	学内演習 レポート	演習と並行しレポート課します。 期日までに提出。
12	小児看護学看護過程① 小児看護過程の特徴(事前準備・アセスメントの視点) ＊配布資料	講義	授業終了後、個人ワークを行い、 期日までに提出。
13	小児看護学看護過程② アセスメント解説 小児看護過程の特徴(関連図) ＊配布資料	個人ワーク 講義	授業終了後、個人ワークを行い、 期日までに提出
14	小児看護学看護過程③ 看護計画解説 小児看護過程の特徴(行動計画) ＊配布資料	個人ワーク 講義	授業終了後、個人ワークを行い、 期日までに提出
15	終講試験	筆記試験	

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学各論 医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 第 2 版 照林社 小児看護実習クイックノート
参考書・資料 等	国民衛生の動向 小児看護学概論・方法論Ⅰ～Ⅱにおいて配布された授業プリント
この授業科目の前提となる主な科目	基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ 成人看護学方法論Ⅰ～Ⅳ 小児看護学概論・方法論Ⅰ～Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	小児看護学実習 母性看護学実習
成績評価の方法	評価時期：終講試験…授業最終回 課題提出物…指定期日までに提出していること(取り組み状況を評価) 評価配分：試験 宇賀神25点、金田25点、小堀30点 古川:20点(看護過程課題)
その他 受講生への要望等	1.小児に特徴的な看護を学びます。基礎看護や成人看護がベースとなりますので復習した上で授業に臨んで下さい。 2.学内演習は基礎に準じ、身だしなみや態度に注意して演習を行って下さい。 3.看護過程はレポートで評価します。期日までに提出できるよう計画的に取り組んでください。

授業科目名	母性看護学方法論Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	この授業では、思春期、成熟期、更年期、老年期といった、女性のライフステージ各期の特徴と、健康課題について学習します。また、それらの課題を改善するための看護について考え、保健指導案の作成方法や保健指導の実際について、演習を通して学びます。		
授業科目の到達目標	1. 女性のライフステージにおける特徴が述べられる。 2. 女性のライフステージ各期の健康課題と看護が述べられる。 3. 演習を通してウェルネスに向けた、健康教育・保健指導の方法が述べられる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	女性のライフサイクルと健康 女性のライフステージ各期の健康問題と看護	講義	事前学習①
2	保健指導技術 保健指導案の作成方法	講義	
3	ウェルネス志向について 母性看護学における健康相談・教育の実際	講義	
4	指導案作成	講義	
5	演習 個人ワーク 指導案作成(テーマ・目的・目標)	演習	
6	演習 個人ワーク 指導案作成(指導内容・方法)	演習	
7	演習 個人ワーク 指導案作成(指導内容・方法)	演習	指導案①②
8	終講試験	試験	

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	母性看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学方法論Ⅲ 母性看護学実習
成績評価の方法	事前課題 10 点・保健指導 50 点・終講試験 40 点
その他 受講生への要望等	女性の健康に興味・関心を持って授業に臨んでください。 尚、本科目の単位修得は、母性看護学実習の履修前提条件となります。

授業科目名	母性看護学方法論Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	助産師
開講年度	2024 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	この授業では、母性看護の対象である妊産婦とその家族への基本的な看護について学習します。まずは妊娠の生理的変化や分娩の正常経過を理解すると共に、ハイリスク・異常妊娠、分娩についても学びます。また、妊産婦の身体的・心理的・社会的な変化を理解し、看護に必要なアセスメントとセルフケア能力を高める援助について演習を通して学習します。		
授業科目の到達目標	1. 妊娠の生理的な経過と異常妊娠について述べられる。 2. 分娩の正常な経過と異常分娩について述べられる。 3. 妊産婦の身体的・心理的・社会的特徴が述べられる。 4. 妊娠期・分娩期のアセスメントの視点が述べられる。 5. 妊娠期・分娩期の看護が述べられる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	正常な妊娠経過 ・妊娠の成立	講義	
2	妊娠経過に伴う妊婦の身体的変化 ・妊娠による不快症状	講義	
3	妊娠経過に伴う妊婦と家族の心理的・社会的変化 妊娠の診断・妊娠の受容 ・妊娠期に行う検査	講義	
4	胎児の発育・胎児の附属物とその役割 ・胎児の発育・胎児循環・新生児循環 ・胎盤・羊水・卵膜・臍帯	講義	
5	妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント ・妊婦健診 ・日常に関するアセスメント	講義	
6	妊婦健診・マイナートラブルへの対応 ・妊婦が受ける母子保健サービス ・妊婦の保健指導の実際	講義	
7	異常妊娠の理解と看護 ・ハイリスク妊娠 ・流早産・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病	講義	妊娠期の看護過程課題
8	妊娠期の事例展開	演習	

9	親になるための準備教育 分娩の要素① ・分娩の区分 ・分娩の経過	講義	
10	分娩の要素② ・分娩の3要素 ・分娩の機序	講義	
11	分娩の経過 ・分娩の進行に伴う産婦の身体的変化 ・分娩の進行に伴う産婦の心理・社会的変化	講義	
12	分娩の異常と看護	講義	
13	産婦・胎児・家族のアセスメント 産婦と家族の看護	講義	分娩期の看護過程課題
14	分娩期の事例展開	演習	
15	終講試験	試験	

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	母性看護学方法論Ⅲ 母性看護学実習
成績評価の方法	看護過程課題 20%、終講試験 80%
その他 受講生への要望等	

授業科目名	母性看護学方法論Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	助産師
開講年度	2024年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	この授業では、母性看護の対象である褥婦、新生児とその家族への基本的な看護について学習します。まずは産褥期の正常経過と新生児の生理的変化を理解すると共に、産褥期の異常と新生児の異常についても学びます。また、褥婦及び新生児の身体的・心理的・社会的な変化を理解し、看護に必要なアセスメントと基本的な援助技術について演習を通して学習します。		
授業科目の到達目標	1. 産褥期の正常な経過と産褥期の異常について述べられる。 2. 新生児の生理的な経過と新生児の異常について述べられる。 3. 褥婦の身体的・心理的・社会的特徴が述べられる。 4. 産褥期・新生児期のアセスメントの視点が述べられる。 5. 産褥期・新生児期の看護が述べられる。 6. 新生児の清潔ケアの目的及び根拠、手順が述べられる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	産褥期の経過 ・産褥期の身体的変化 ・産褥期の心理的・社会的変化	授業	
2	産褥期のアセスメント① ・産褥経過の診断 ・褥婦の健康状態のアセスメント	授業	
3	産褥期のアセスメント② ・母子関係の構築 ・家族関係の再構築 ・育児技術	授業	
4	産褥期の異常 ・子宮復古不全 ・産褥熱 ・乳腺炎 ・産後うつ病	授業	
5	産褥期の看護① ・産褥体操 ・母乳栄養 ・退院後生活支援	授業	
6	新生児の生理 ・新生児とは ・胎児循環と新生児循環 ・新生児の機能 ・ビリルビン代謝と生理的黄疸 ・新生児の代謝と免疫 ・新生児の反射	授業	

7	新生児のアセスメント① ・出生直後の評価	授業	
8	新生児のアセスメント② ・子宮外生活適応状態	授業	
9	新生児の看護① ・新生児の看護の原則 ・出生直後の看護 ・出生後から退院までの看護	授業	
10	新生児の異常と看護① ・低出生体重児 ・高ビリルビン血症 ・新生児出血性疾患	授業	
11	産褥期の看護② ・事例展開	授業	産褥期の看護過程課題
12	新生児の看護② ・事例展開	授業	新生児期の看護過程課題
13	産褥期の看護③ ・退行性変化の観察 ・進行性変化の観察 ・育児技術習得への援助	演習 (クラス別)	
14	新生児の観察・ケア ・新生児計測 ・清潔ケア(沐浴・ドライテクニック)	演習 (クラス別)	
15	終講試験	試験	

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学方法論Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	母性看護学実習
成績評価の方法	看護過程課題 20%(産褥期 10%、新生児期 10%) 終講試験 80%(産褥期 40%、新生児期 40%)
その他 受講生への要望等	

授業科目名	精神看護学方法論Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	医師
開講年度	2024 年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	この科目では、看護実践の科学的な根拠となる精神疾患の特徴、症状、疫学、治療について学びを深めていきます。		
授業科目の到達目標	1.各疾患の病態を述べられる。 2.各疾患の検査と診断基準、症状と予後を述べられる。 3.各疾患の基本的な治療を述べられる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	精神症状論、状態像	講義	
2	精神障害の診断・検査、法律	講義	
3	精神科における治療	講義	
4	・統合失調症	講義	
5	・気分障害	講義	
6	・神経症性障害 ・ストレス関連障害及び身体表現性障害 ・摂食障害 ・パーソナリティ障害 ・性同一性障害	講義	
7	・器質性精神障害(認知症など) ・精神作用物質使用による精神および行動の障害 ・てんかん ・発達障害 ・睡眠障害	講義	
8	終講試験	試験	

使用テキスト	専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 ②精神看護の展開 医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般 精神看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	精神看護学方法論Ⅱ 精神看護学方法論Ⅲ 精神看護学実習 在宅看護論実習 看護の統合と実践実習
成績評価の方法	終講試験 100 点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	精神看護学方法論Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	精神看護は、個人の尊厳と権利を擁護し、自律性の回復やその人らしい生活が送れるよう支援することが基本です。この基本を踏まえ、疾患からくる生活のしづらさに焦点をあて、そこで必要な関わり方やケアの方法、リスクマネジメント、疾患別の看護などの知識を深めていきます。		
授業科目の到達目標	1. 精神障害を持つ人との関わり方やケアの方法について説明できる。 2. 患者の回復を促す治療的環境をつくり出すために看護師に求められることは何かを説明できる。 3. 患者の安全を守るためのリスクマネジメントについて説明できる。 4. 精神科における身体ケアの実際がわかる。 5. 疾患別の看護について述べられる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	<u>精神障害を持つ人へのケアの基本的な方法</u> ケアの前提、ケアの原則、ケアの方法	講義	
2	<u>回復を支援する①</u> 精神障害を持つ人の回復を支える様々な治療的アプローチ	講義	
3	<u>回復を支援する②</u> 入院治療の目的と意味、精神障害を持つ人の回復を支える治療的環境	講義	
4	<u>安全をまもる①</u> リスクマネジメントの考え方と方法	講義	
5	<u>安全をまもる②</u> 緊急事態の対処方法や予防、病院が被災したとき	講義	
6	<u>身体をケアする①</u> 精神科における身体ケアと身体を通じた看護ケアの実際	講義	
7	<u>身体をケアする②</u> 精神科の治療に伴う身体ケアや精神科に多い身体合併症	講義	
8	<u>統合失調症患者の看護①</u> 急性期のアセスメントの視点や関わり方	講義	
9	<u>統合失調症患者の看護②</u> 慢性期のアセスメントの視点や関わり方	講義	

10	<u>気分障害患者の看護</u> アセスメントの視点や関わり方	講義	
11	<u>摂食障害・パーソナリティ障害患者の看護</u> アセスメントの視点や関わり方	講義	
12	<u>精神作用物質使用による精神および行動の障害患者の看護</u> アセスメントの視点や関わり方	講義	
13	<u>神経症性障害、ストレス関連障害、および身体表現性障害、 発達障害患者の看護</u> アセスメントの視点や関わり方	講義	
14	<u>認知症患者の看護</u> アセスメントの視点や関わり方	講義	
15	終講試験	試験	

使用テキスト	専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院
参考書・資料 等	パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般 社会福祉論Ⅰ 社会福祉論Ⅱ 公衆衛生学 基礎看護学概論 基礎看護学方法論Ⅰ 基礎看護学方法論Ⅱ 精神看護学概論 精神看護学方法論Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	精神看護学方法論Ⅲ 看護の統合Ⅲ 精神看護学実習 在宅看護論実習 看護の統合と実践実習
成績評価の方法	終講試験 100点（加藤 50点・原田 50点）
その他 受講生への要望等	精神看護における難しさは、同じ病名でも対象者個々により、その病態像は様々であり、このような曖昧で不明確な状況においても、エビデンスに基づいた看護が求められるという点です。方法論Ⅱでは、疾患別の看護の基本知識を得るとともに、対象に向き合っていく姿勢も養っていきましょう。

授業科目名	精神看護学方法論Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024 年度	学 期	後期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	これまでの知識を統合して、精神障害を持ちながらもその人らしい生活が送れるよう対象のニーズに合わせた看護過程の展開について事例を通して学んでいきます。さらに精神障害を持つ人の地域生活を支えるための援助は、障害者本人の自発性やストレングスに焦点をあてることや社会資源や制度の活用、多職種と連携しながらの地域ネットワークづくりなど地域看護ならではの特色があります。そうした地域の特徴的な看護の実際について学んでいきます。		
授業科目の到達目標	1. 疾患の特徴を踏まえ、個別性に応じた看護過程が展開できる。 2. 退院支援・地域生活支援での看護の役割が述べられる。 3. 精神障害を持つ人の地域での生活を想定した看護を考えることができる。 4. 精神障害を持つ人との関わり方のポイントについて演習を通して述べられる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	<u>看護過程の展開①</u> 精神看護における看護過程のポイント 事前学習	講義	
2	<u>看護過程の展開②</u> 病態関連図 （看護過程様式 5 号）	個人ワーク	
3	<u>看護過程の展開③</u> 情報の分類・整理 （看護過程様式 1 号・2 号）	個人ワーク	
4	<u>看護過程の展開④</u> 情報の分類・整理 （看護過程様式 1 号・2 号）	個人ワーク	
5	<u>看護過程の展開⑤</u> 情報の整理・分析 （アセスメントシート）	個人ワーク	
6	<u>看護過程の展開⑥</u> 情報の整理・分析 （アセスメントシート）	個人ワーク	
7	<u>看護過程の展開⑦</u> 看護計画 （看護過程様式 6 号）	グループワーク	
8	<u>看護過程の展開⑧</u> 看護計画 （看護過程様式 6 号） 全体関連図 （看護過程様式 5 号）	グループワーク 個人ワーク	

9	<u>地域における精神保健と精神看護①</u> 精神障害を持ちながら地域で暮らす人を支える社会資源・サービスと 精神看護の実際	講義	
10	<u>地域における精神保健と精神看護②</u> 事例をもとに退院支援について考える①	グループワーク	
11	<u>地域における精神保健と精神看護②</u> 事例をもとに退院支援について考える②	グループワーク	
12	<u>精神障害を持つ人との関わり方①</u> 統合失調症患者との関わり方	演習	
13	<u>精神障害を持つ人との関わり方②</u> 気分障害患者との関わり方	演習	
14	<u>援助関係の構築(プロセスレコード)</u> 関係をアセスメントすることの意味と方法。プロセスレコードの書き方。	講義	
15	終講試験	試験	

使用テキスト	専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院
参考書・資料 等	パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 精神看護実習クイックノート
この授業科目の前提と なる主な科目	基礎分野全般 社会福祉論Ⅰ 社会福祉論Ⅱ 公衆衛生学 基礎看護学概論 基礎看護学方法論Ⅰ 基礎看護学方法論Ⅱ 臨床看護総論 看護過程 精神看護学概論 精神看護学方法論Ⅰ 精神看護学方法論Ⅱ
この授業科目から発展 する主な科目	看護の統合Ⅲ 精神看護学実習、在宅看護論実習、看護の統合と実践実習
成績評価の方法	①提出物 30点 ②終講試験 70点
その他 受講生への要望等	その人らしさを考えて看護することが精神看護であると感じています。その方法の1つが看護 過程の展開です。また、これまで学んだように精神医療も日進月歩。治療方針や看護も変化し ています。退院支援のサポートをできることが、今の精神看護に必要な看護技術です。精神看 護の“楽しさ”や“やりがい”を感じながら、一緒に学んでいきましょう。

授業科目名	看護の統合と実践Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	看護管理システムを学ぶことで、チーム医療の重要性やリーダーシップ、メンバーシップ能力の必要性を理解します。さらに、医療現場における倫理的判断の必要性を学びます。 安全で質の高い医療・看護を提供するために、医療安全の基礎的知識を学びます。人間の特性を前提とし、事故が起きやすい状況や背景、また回避するための方策を、知識だけではなく、その知識に基づいたリスク感性を磨き、身近な状況設定の中で考え、判断し、対策を実行できるよう、実際に即して学びます。		
授業科目の到達目標	1. 医療事故・過誤防止について、看護師に必要な知識・技術が理解できる。 2. 看護師が持つべき倫理的責任について理解できる。 3. 看護をマネジメントできるための看護の組織・管理の基本が理解できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	【医療安全】 医療事故の概念 (医療事故と看護業務、自己の構造と考え方)	講義	
2	【医療安全】 診療の補助の事故防止 (注射業務、輸液ポンプ、シリンジポンプ、輸血、内服)	講義	
3	【医療安全】 診療の補助の事故防止 (経管栄養、チューブ管理)	講義	
4	【医療安全】 療養上の世話における事故防止 (転倒・転落、窒息、誤嚥防止、異食、入浴中事故)	講義	
5	【医療安全】 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 インシデント・アクシデント 看護師の労働安全衛生上の事故防止	講義	
6	【医療安全】 組織的な安全管理体制への取り組み (医療安全体制、安全対策委員会、練習問題)	講義	
7	【看護管理】 組織の成り立ちと管理論	講義	
8	【看護管理】 リーダーシップとメンバーシップ	講義	
9	【看護管理】 看護管理の基本 (1)看護管理の概念 (2)定義・目的・機能評価	講義	

10	【看護管理】 看護業務と労働条件・看護管理の職務を行う場	講義	
11	【看護管理】 コミュニケーション体験を通して伝えたいこと	グループワーク	
12	【看護倫理】 看護倫理(ビーチャムとチルドレス・サラフライ)	講義	
13	【看護倫理】 看護実践と看護師の倫理綱領	講義	
14	【看護倫理】 拘束の事例より	講義	
15	終講試験		

使用テキスト	上泉和子著者:系看 統合分野 看護の統合と実践① 看護管理 医学書院 川村治子著者:系看 統合分野 看護の統合と実践② 医療安全 医学書院
参考書・資料 等	茂野香おる著者:系看 専門分野 I 基礎看護学①看護学概論 医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	専門分野全般
この授業科目から発展する主な科目	臨地実習全般
成績評価の方法	終講試験 (山形 35 点 岡野 45 点 今井 20 点)
その他 受講生への要望等	

授業科目名	看護の統合と実践Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024 年度	学 期	前期
年 次	2年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	地域包括ケア・地域共生社会の実現のために、多様な場で暮らす、様々なライフステージ・健康レベルにある対象の健康や生活を守る保健・医療・福祉の提供に向けて、互いの職種の特性を活かしながら、対象の目標達成、課題解決に向けてよりよい方法をともに検討し、実現をめざす基礎的能力の習得を目指します。 これまで学習した知識や技術を活用し、事例を通して、多職種の視点で対象のもつ複数の課題を明確にし、多職種連携における看護師の役割について学ぶと共に切れ目のないケアの在り方について考えます。		
授業科目の到達目標	1. 多職種の役割と責務について理解する 2. 多職種間のコミュニケーション能力を身につける 3. 多職種で対象者の目標を共有する 4. 対象者の目標達成、ケアの質向上に向けて、多職種と共に考える 5. 多職種連携に向けての展望を述べる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	オリエンテーション 多職種連携とは 事例提示	講義	事前学習
2	事例展開① 対象の課題を明らかにし、目標を考える	演習	レポート
3	事例展開② 対象への看護の在り方を考える	演習	レポート
4	介護福祉士の役割及び責務 介護福祉士からみた対象 介護福祉士からみた対象の課題及び介入方法	講義	
5	社会福祉士の役割及び責務 社会福祉士からみた対象 社会福祉士からみた対象の課題及び介入方法	講義	
6	歯科衛生士の役割及び責務 歯科衛生士からみた対象 歯科衛生士からみた対象の課題及び介入方法	講義	
7	理学療法士の役割及び責務	講義	

	理学療法士からみた対象 理学療法士からみた対象の課題及び介入方法		
8	作業療法士の役割及び責務 作業療法士からみた対象 作業療法士からみた対象の課題及び介入方法	講義	
9	助産士の役割及び責務 助産士からみた対象 助産士からみた対象の課題及び介入方法	講義	
10	多職種連携演習① 他学科の学生と多職種の役割と責務について知る	演習 グループワーク	
11	多職種連携演習② 他学科の学生と多職種連携についての展望を語る	演習 グループワーク	レポート
12	事例展開③ 他学科教員の講義及び多職種連携演習を踏まえて、 対象の課題及びケアの在り方について再考する 多職種連携演習の学びをまとめる	グループワーク	レポート
13	学びの共有①	発表	
14	学びの共有②	発表	レポート
15	終講試験		

使用テキスト	既習で使用したテキスト全般
参考書・資料 等	既習で使用したテキスト全般
この授業科目の前提となる主な科目	生活学科、倫理学、心理学、社会学、家族論、地域論、人間関係論、 専門基礎科分野
この授業科目から発展する主な科目	専門分野、統合分野
成績評価の方法	筆記試験、レポート(宮崎 70 点、他学科教員各 5 点)
その他 受講生への要望等	これまでに修得した基礎知識・技術・態度を踏まえて臨んでください。 統合分野の授業科目の単位が取得できない場合、当該領域の臨地実習を履修できません。

授業科目名	看護の統合と実践Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師・助産師
開講年度	2024年度	学 期	前期
年 次	2 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	国際看護では、医療サービスを担う専門職として、異文化への理解を深め、グローバルな視点で看護を考えます。さらに、感染看護では、医療安全の基本概念を理解し、社会の医療安全ニーズに応えられる知識を習得し、その実践を考えます。 災害看護では、災害時に適切な看護ケアを提供するために、災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解し、人々の健康や生活のニーズに応じた看護の果たす役割についても学びます。		
授業科目の到達目標	1. 災害の定義と災害看護、災害時の看護活動が理解できる。 2. 医療安全の知識を踏まえ、感染症看護について理解できる。 3. 諸外国における保護医療の現状を学び、国際協力・国際支援について考えを深める。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	【国際看護】 国際社会の現状と課題 異文化理解、国際看護の課題・対象・実際 グローバルヘルス、国際協力のしくみ	講義	
2	【国際看護】 文化を考慮した看護、国際支援、国際看護展開 国内での国際看護	講義	
3	【感染看護】 感染管理、サーベイランス、アウトブレイク	講義	
4	【感染看護】 国際感染症とその対策（疫学で監視する感染症等）、 感染症と内服支援（結核、HIV/AIDS）、 感染の拡大と抑圧（マラリア、ハンセン病等）	講義	
5	【災害看護】 災害看護に関する基礎知識（概要・特徴・CSCATTT 等） 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 （急性期・亜急性期・慢性期・復興期・静穏期）	講義	
6	【災害看護】 被災者犠牲に応じた災害看護の展開 災害とこころのケア	講義 シミュレーション	

	災害がもたらす精神的影響 救護活動の実際 災害支援のポイント		
7	【災害看護】 避難所設営と支援のポイント	講義 グループワーク	
8	終講試験		

使用テキスト	竹下喜久子編集： 系看 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護・国際看護 医学書院．2021． 系看 統合分野 看護の統合と実践② 医療安全 医学書院．
参考書・資料 等	災害看護学学習テキスト 日本看護協会
この授業科目の前提となる主な科目	専門分野全般
この授業科目から発展する主な科目	臨地実習全般
成績評価の方法	終講試験（三浦 25 点 別井 25 点 中田 50 点）
その他 受講生への要望等	統合分野の授業科目の単位が取得できない場合、当該領域の臨地実習を履修できません。